

愛知県美術館年報

目次

刊行にあたって	07
主要記事	09
企画展(開館記念展)	10
開館記念展第1部 フォーヴィズムと日本近代洋画	11
開館記念展第2部 近代の日本画―西洋との出会いと対話―	18
開館記念展第3部 20世紀 愛知の美術	22
収集	27
所蔵作品展	29
貸出	39
保存	40
教育普及	41
貸館事業(ギャラリー)	42
管理・運営	44
施設概要(展示・保存環境等)	46
愛知県美術館組織図	47
関係委員会名簿	48
開館の状況	49
関係法規(条例・規則等)	50
愛知県美術館沿革	56
利用案内	57

刊行にあたって

愛知県美術館は、1992(平成4)年秋の愛知芸術文化センターの開館にともない、愛知県芸術劇場、愛知県文化情報センターとともに、その一翼を担う施設として新しく開館しました。

愛知県美術館の前身である愛知県文化会館美術館は、1955(昭和30)年の開館以来、中部地域の美術活動の拠点として、大きな役割を果たしてきました。しかしながら、この美術館は美術団体などが開催する展覧会に発表の場を提供するという、いわゆるギャラリー、すなわち貸し会場としての性格が強かったことは否めません。そこで愛知県文化会館を発展的に解消し、大規模な複合型の文化施設を建設するにあたり、新しい美術館では、本来の美術館としての活動、つまり、学芸員の調査研究活動に基づいた作品の収集とその展示、各種の企画展の開催、そして作品の保存や教育普及活動を展開することのできるスタッフと設備を充実させることが課題となりました。その結果新しい美術館は、愛知芸術文化センターの10階に所蔵作品展と企画展のための展示室などのさまざまな活動を可能とする諸施設と、8階に旧美術館の機能を引き継ぐギャラリーを併せもつものとなったわけです。

この年報では、開館の年にあたる1992(平成4)年度の、主として開館後の実質5カ月余りの活動概要を記録して報告いたします。それは開館記念展をはじめとする特別な事業を展開した時期でした。所蔵作品展では、旧美術館のコレクションを引き継ぎ、これに新たに収集した作品を加えて、当館の活動方針でもある“20世紀美術の展開”をテーマとして一応のまとまりのある展示をすることができました。そして実際の展示をおこなってみて、コレクションのより一層の充実をはかる必要もまた実感いたしました。企画展では「フォーヴィスムと日本近代洋画」「近代の日本画」「20世紀 愛知の美術」と続く、我々美術館のスタッフが主体的に取り組んで準備した開館記念展のシリーズで、当館が今後どのような時代と地域を主として対象とし、何をテーマとして展覧会活動をしていくかということの一端を示すことができたと考えています。すなわち、日本の近・現代美術に大きな影響を与えた西欧の20世紀美術の動向をとらえ、その影響を受けながら独自の展開をみせた日本の美術を、そして愛知県を中心とするこの地域の美術が内外の大きな美術動向のなかでどのような性格をもっているのかということ、順次検討して紹介していったわけです。今後、当館ではこのようなテーマのもとで、収集・展示活動をすすめて、さまざまな角度から20世紀の美術がもつ特質とその魅力を紹介していきたいと考えています。

また、旧美術館から引き継いだ8階のギャラリーの利用についても、その半年間の状況を報告いたします。照明などの展示設備が充実したこの展示場が、美術の新しい展開を生み出していく場として活用されることを願うしだいです。

美術館の開館にあたっては実に多くの方々や関係機関のご協力とご支援をいただきました。ここに感謝の意を表しますとともに、今後のより一層のご協力とご支援をいただきますようお願い申し上げます。

愛知県美術館長

浅 野 徹



愛知芸術文化センター

主要記事

1992年	10月29日	愛知芸術文化センター開館記念式典
	10月29日	(株)丸栄より寄贈(川島理一郎作《フィリピン服の少女》始め3点)
	10月30日	愛知芸術文化センター愛知県美術館開館 開館記念展第1部「フォーヴィスムと日本近代洋画」開催 (会期10月30日～12月20日) 所蔵作品展第1期「20世紀美術の展開」開催 (会期10月30日～12月20日)
	11月12日	皇太子殿下所蔵作品展ご観覧
1993年	1月5日	開館記念展第2部「近代の日本画 西洋との出会いと対話」開催 (会期1月5日～2月11日) 所蔵作品展第2期「現代美術の諸相」開催 (会期1月5日～3月28日)
	1月27日	1992年度第2回美術館ギャラリー運営会議開催 〈参考-1992年度第1回美術館ギャラリー運営会議(1992.7.22)〉
	2月19日	開館記念展第3部「20世紀 愛知の美術」開催 (会期2月19日～3月21日)
	2月24日	1992年度第3回美術品収集委員会開催 〈参考-1992年度第1回美術品収集委員会(1992.6.12) 1992年度第2回美術品収集委員会(H4.8.5)〉
	2月24日	1992年度美術館運営会議開催



所蔵作品展

企画展(開館記念展)

愛知県美術館では20世紀の美術をコレクション形成の基本方針としている。展覧会に関しては幅広い時代・分野のものが企画されることになるが、しかしコレクションの性格に沿ったものがその中心となるのは言うまでもない。開館記念展の構想にあたってこの美術館の基本的性格を示すことが前提としてあった。

開館記念展に実質的に取り組み始めたのは、1992年10月に予定されていた開館に3年先立つ1989年のことであった。愛知県総務部に設置された愛知県新文化会館建設事務局で開館準備に追われるなかで、この年4月に海外在住の複数の美術専門家に調査員という名称で情報収集を依頼し、また国内でも多くの関係者から事情聴取し、具体的なテーマの検討を重ねた。20世紀初頭の美術動向で日本にほとんど紹介されていなかった『イタリア未来派展』、あるいは芸術文化センターの複合的機能に着目した『音楽と美術展』などさまざまなテーマが検討されたが、最終的にこの年の後半に、日本の近代美術に決定的な影響を与えた20世紀最初の美術動向であるフォーヴィスムを開館記念展の第1弾とすることが、この美術館の性格を明確に表明できるということで決定された。開館展第2部は、第1部をうけて、近代日本画に及ぼした西欧絵画の影響という観点からテーマ設定がなされた。第3部ではこれまで断片的にしか紹介されてこなかった愛知の近代美術を大きく捉えてみることで何かが見えてくるのではないかと、そしてそれを契機にして今後の個別研究につなげられればという思いから発想されたものであった。



フォーヴィスムと近代日本洋画

開館記念展第1部 フォーヴィスムと日本近代洋画

会期：1992年10月30日(金)～12月20日(日)

主催：愛知県美術館

企画協力：東京国立近代美術館・京都国立近代美術館

担当：牧野研一郎 村上博哉 古田浩俊

日本の近代洋画はヨーロッパ絵画のさまざまな流派や様式の影響を受けて展開してきたが、なかでもフランスのフォーヴィスムの影響は最も広範囲に及んだとされている。1912年のフュウザン会に参加した岸田劉生や萬鐵五郎などといった青年画家の作品の一部にその影響は顕著にみられ、また1920年代から30年代にかけての佐伯祐三や前田寛治などの作品にみられる主観的な絵画様式に対しては「日本的フォーヴ」の名が与えられてきた。さらに1930年代以降の、日本的な性格を主張し具現した「日本的油絵」の形成においてもフォーヴィスムは無縁ではなかった。この展覧会は、このように日本の近代洋画の性格を大きく規定した20世紀絵画の出発点としてのフォーヴィスムを再確認したうえで、日本におけるその受容の様態とその後の展開の軌跡を検証しようとして企画された。出品点数182点からなるこの展覧会は次の5章から構成された。

第1章「フランスのフォーヴィスム」は印象派と後期印象派の画家たちが視覚の経験あるいは科学的な理論に基づき構築した複数の様式を、そのいずれをも否定することなく受け入れることによって、結果的にはそれらの様式の相対性を明らかにしつつには破壊して絶対的な自由を獲得するにいたったフォーヴの画家たちの作品を、マチス、ドラン、ウラマンクなどのフォーヴ期の代表的作例によって示した。日本ではこれまで殆ど見る機会がなかったヴァン・ドンゲンのフォーヴ期の作品が展示されたことも話題のひとつであった。

第2章「フォーヴィスムとドイツ表現主義／フォーヴの画家たちの変容」では、カンディンスキーやヤウレンスキーなどドイツ表現主義の画家たちがフォーヴィスムの作品に接しそのモチーフや技法においてそれを参照した作例を、フォーヴィスムの日本への波及を考えるうえでの比較対象として呈示し、またあわせて1920年代に渡欧した日本の画家たちに強い影響を与えたフォーヴィストたちのフォーヴ以降の作品が展示された。

第3章「フォーヴィスムの日本への波及」では明治末から大正初期にかけて雑誌『白樺』や画集などの作品図版などによっていち早くフォーヴィスムの洗礼を受けた岸田劉生や萬鐵五郎などフュウザン会のメンバーの作品等で、フォーヴィスムの日本への最初の波動を再現し、第4章「フォーヴィスムの日本的展開」では1920年代から30年代にかけてヨーロッパに留学し、帰国後一九三〇年協会、独立美術協会を結成しフォーヴィスムを声高に主唱した画家たちの作品をとおり、かれらが抱いていたフォーヴのイメージを検証した。

第5章「日本的油絵の形成」では第3、4章で登場した青年期にフォーヴの洗礼を受けた画家たちのうちでその後、西洋絵画の模倣を超え日本人の独自性を持つ絵画の構築に向かった画家たちの作品群を紹介した。

公立美術館の開館展としては財政的にも時間的にも比較的めぐまれた条件のもとで準備を進めることができたことで、充実した内容の展覧会という評価を国内外の美術館関係者からは受けたが、入場者数は当初想定していた数字を大幅に下回った。これは、ひとつには『フォーヴィスム』という名称が、われわれが考えていたよりも一般に馴染みが薄かったことが原因であろう。また、広報宣伝面での不足もあったようだ。しかしながら、約3年間に及ぶ困難な出品交渉のなかで国内外の美術館、個人コレクターに愛知県美術館の存在を認知してもらえたことは、今後の美術館活動に大きな力となるであろう。

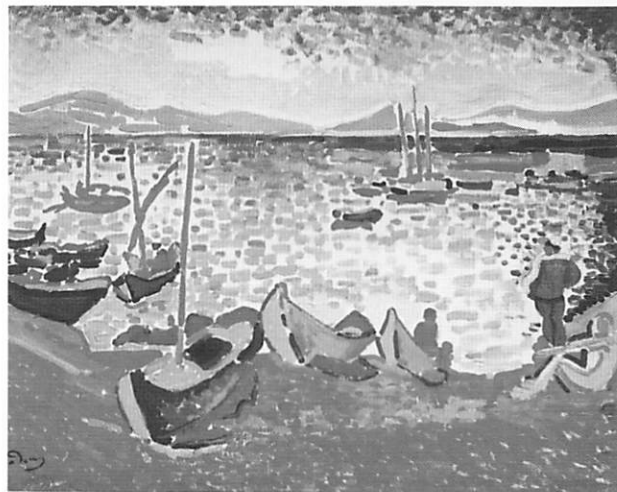
今後も定期的に20世紀美術の大きな動向をテーマにした展覧会を開催していく予定である。

愛知芸術文化センター 愛知県美術館開館記念展

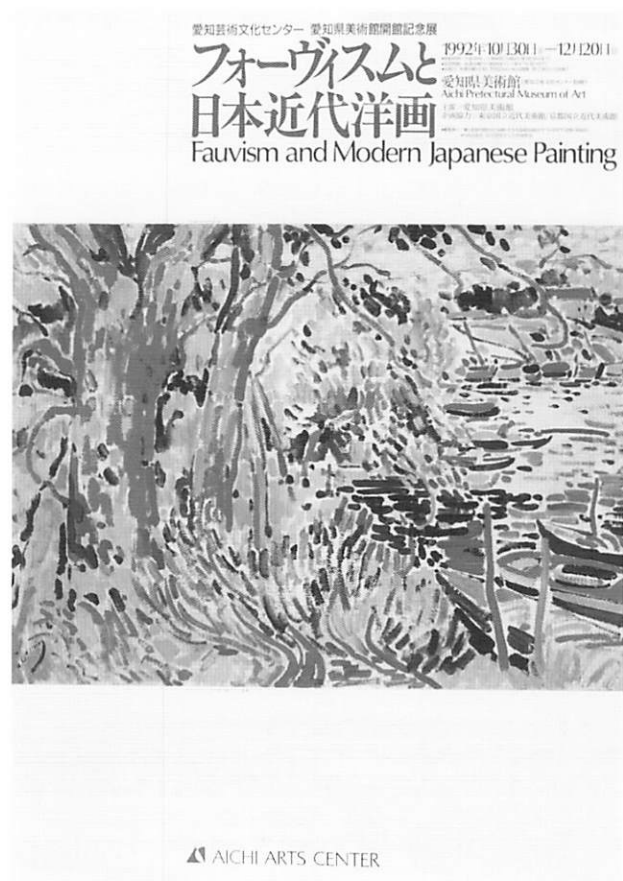
フォーヴィスムと日本近代洋画

1992年10月30日～12月20日 愛知県美術館

Fauvism and Modern Japanese Painting



AICHI ARTS CENTER



観覧料：一般1100(900)円／高校・大学生800(600)円

小・中学生500(300)円

() 内は前売り及び20名以上の団体料金

総入場者数：41,343人

1日平均入場者数：919人

《展覧会巡回先》

●京都国立近代美術館（会期1993年1月5日～2月14日）

●東京国立近代美術館（会期1993年2月24日～3月28日）

カタログ：A4判変形（30×25センチ） 330ページ

編集・発行 愛知県美術館

制作 美術出版デザインセンター

1992.10発行



1992年10月13日—12月12日 愛知県美術館
Fauvism and Modern Japanese Painting

愛知芸術文化センター 愛知県美術館開館記念展
フォーヴィスムと
日本近代洋画

AICHI ARTS CENTER



1992年10月13日—12月12日 愛知県美術館
Fauvism and Modern Japanese Painting

愛知芸術文化センター 愛知県美術館開館記念展
フォーヴィスムと
日本近代洋画

AICHI ARTS CENTER



愛知芸術文化センター 愛知県美術館開館記念展
フォーヴィスムと日本近代洋画
1992年10月13日—12月12日 愛知県美術館

Fauvism and Modern Japanese Painting



カタログ表紙

関連行事

- 1) 第1回記念講演会：11月7日(土)
講師：陰里鐵郎氏（三重県立美術館館長）
ドナルド・マッカラム氏（カリフォルニア大学美術学部長）
- 2) 第2回記念講演会：11月21日(土)
講師：高階秀爾氏（国立西洋美術館館長）
馬淵明子氏（青山女子短期大学助教授）
- 3) 第1回美術館講座『フォーヴィスムをめぐる1』
12月5日(土)
講師：野見山暁治氏（東京芸術大学名誉教授）
二見 史郎氏（愛知県立芸術大学教授）
- 4) 第2回美術館講座『フォーヴィスムをめぐる2』
12月12日(土)
講師：島田康寛氏（京都国立近代美術館館主任研究官）
田中 淳氏（東京国立近代美術館館主任研究官）

主要関連記事

《定期刊行物》

- 浅野 徹：「〈フォーヴィスムと日本近代洋画〉展について」
『三彩』 1992年11月号
- 島田紀夫：「〈フォーヴ〉は〈野獣〉か？」
『三彩』 1992年11月号
- 村上博哉：「フォーヴィスムの日本への紹介」
『三彩』 1992年11月号
- 青木茂、丹尾安典(対談)：「フォーヴィスムとは何なのだ!？」
『芸術新潮』1993年1月号
- 深谷克典：「〈日本的フォーヴ〉の起源とひろがり」
「フォーヴィスムと日本近代洋画」
『美術手帖』1993年2月号

《新聞》

- 牧野研一郎：「フォーヴィスムと日本近代洋画」
「フォーヴィスムが与えたもの」
『新美術新聞』1992年11月1日号
- ドナルド・マッカラム：「〈フォーヴィスムと日本近代洋画展〉に寄せて」
読売新聞1992年11月20日朝刊
- 笠井誠一：「フォーヴィスムと日本近代洋画」
朝日新聞1992年12月4日夕刊
- “Fauvism on display”, The Japan Times, Sunday, December 6, 1992

出品作品

CATNo	作家名	邦題	制作年	技法、材質	大きさ(タテ×ヨコ)cm	所蔵
1.	ジョルジュ・ブラック	小舟	1906年	油彩、麻布	45×54	個人蔵
2.	ジョルジュ・ブラック	レストラン風景	1906年	油彩、麻布	60.0×72.5	個人蔵
3.	ジョルジュ・ブラック	レストランの港	1906年	油彩、麻布	50×61	フリダルト財団
4.	ジョルジュ・ブラック	フィグロルの入江 ラ・シオタ	1907年	油彩、麻布	60.5×72.7	個人蔵
5.	ジョルジュ・ブラック	入江	1907年	油彩、麻布	43×55	個人蔵
6.	シャルル・カモワン	マルセイユの港	1906年	油彩、麻布	73×93	個人蔵
7.	シャルル・カモワン	裸婦	1907年	油彩、麻布	81×65	個人蔵
8.	アンドレ・ドラン	イール＝ド＝フランス風景	1904年	油彩、麻布	39×53	個人蔵
9.	アンドレ・ドラン	カリエール＝シュル＝セヌのセヌ河岸	1904-05年	油彩、麻布	70.7×110.7	キンベル美術館
10.	アンドレ・ドラン	帽子を被った自画像	1905年頃	油彩、麻布	33×25.5	個人蔵
11.	アンドレ・ドラン	マチスの肖像	1905年	油彩、麻布	33×40.5	フィラデルフィア美術館
12.	アンドレ・ドラン	コリウールの港の舟	1905年	油彩、麻布	72×95	個人蔵 スイス
13.	アンドレ・ドラン	コリウールの釣舟	1905年	油彩、麻布	38.2×46.3	ニューヨーク近代美術館
14.	アンドレ・ドラン	コリウールの眺め	1905年	油彩、麻布	60×73	パリ国立近代美術館
15.	アンドレ・ドラン	シャトゥーのセヌ川	1906年	油彩、麻布	60×81.5	個人蔵 ニューヨーク
16.	アンドレ・ドラン	チームズ川とタワー・ブリッジ	1906年	油彩、麻布	66.5×99	フリダルト財団
17.	アンドレ・ドラン	チームズ川の船	1906年	油彩、麻布	65×100	個人蔵
18.	アンドレ・ドラン	ロンドン・ブリッジ	1906年	油彩、麻布	63×95.5	個人蔵 スイス
19.	アンドレ・ドラン	レストラン風景	1906年	油彩、麻布	50.8×64.8	サンフランシスコ近代美術館
20.	ラウル・デュフィ	ルアーヴル 7月14日	1906年	油彩、麻布	46.5×38	フリダルト財団
21.	ラウル・デュフィ	サンタドレスの浜辺	1906年	油彩、麻布	65×81	愛知県美術館
22.	ラウル・デュフィ	サンタドレス カジノ・マリー＝クリスティーヌの遊歩道	1906年頃	油彩、麻布	65.1×80	ミルウォーキー美術館
23.	ラウル・デュフィ	トゥルーヴィール	1906-07年	油彩、麻布	54×65	フリダルト財団

24.	ラウル・デュフィ	花のある自画像	1907年	油彩、麻布	81×65	個人蔵
25.	ラウル・デュフィ	散歩する人々	1906-7年頃	油彩、麻布	46×55	個人蔵
26.	ラウル・デュフィ	マルティエグの小舟	1907年	油彩、麻布	54×65	個人蔵
27.	オトン・フリエス	ラ・シオタのカプチン山	1907年	油彩、麻布	65.1×81.2	個人蔵 スイス
28.	オトン・フリエス	木のある風景	1907年頃	油彩、麻布	32×40.5	個人蔵
29.	オトン・フリエス	ラ・シオタ風景	1907年	油彩、麻布	65×80	個人蔵
30.	オトン・フリエス	フェルナン・フルーレの肖像	1907年	油彩、麻布	73×60	パリ国立近代美術館
31.	アンリ・マンギャン	サン＝トロペ 7月14日	1905年	油彩、麻布	61×50	個人蔵
32.	アンリ・マンギャン	昼寝(横たわるジャンヌ)	1905年	油彩、麻布	50×61	個人蔵
33.	アンリ・マンギャン	コルク壺	1906年	油彩、板	37×45	個人蔵
34.	アンリ・マンギャン	《浴女》のための習作	1906年	油彩、麻布	37.5×48	個人蔵
35.	アルベール・マルケ	「フォーヴ」の裸婦	1899年	油彩、紙	73×50	ボルドー美術館
36.	アルベール・マルケ	マンギャンのアトリエで制作するマチス	1904-05年	油彩、麻布	100×73	パリ国立近代美術館
37.	アルベール・マルケ	植民地の軍曹	1906年頃	油彩、麻布	81×65	ボルドー美術館
38.	アルベール・マルケ	ル・アーヴルの市	1906年	油彩、麻布	65×81	ボルドー美術館
39.	アルベール・マルケ	サンタドレスの浜辺	1906年	油彩、麻布	65×81	個人蔵
40.	アンリ・マチス	画室の裸婦	1899年	油彩、紙	65.5×50	石橋財団ブリヂストン美術館
41.	アンリ・マチス	ベヴィラッカの肖像	1901年	油彩、麻布	35×27	ボルドー美術館
42.	アンリ・マチス	花	1903年頃	油彩、厚紙	34.0×26.0	サンフランシスコ近代美術館
43.	アンリ・マチス	コリウール	1905年	油彩、板	24.5×32.5	石橋財団ブリヂストン美術館
44.	アンリ・マチス	コリウール風景	1905年	油彩、厚紙	21.9×48.3	ヒューストン美術館
45.	アンリ・マチス	花と女	1906年	油彩、板	32×40	個人蔵
46.	アンリ・マチス	帆船	1906年	油彩、麻布	25×59	個人蔵
47.	アンリ・マチス	花	1907年	油彩、麻布	65×54	個人蔵

48.	ケース・ヴァン・ドンゲン	ムーラン・ド・ラ・ギャレットのヴァイオリン奏者	1905年	油彩、麻布	65×53.5	個人蔵
49.	ケース・ヴァン・ドンゲン	雲の中のグースとドリー	1905年	油彩、麻布	73×92	個人蔵
50.	ケース・ヴァン・ドンゲン	宝石をつける踊り子	1905年頃	油彩、麻布	130×97	フリダルト財団
51.	ケース・ヴァン・ドンゲン	美しいファーマティマ	1906年	油彩、麻布	65.5×56	個人蔵
52.	ケース・ヴァン・ドンゲン	インドの踊り子	1907年	油彩、麻布	100×81	個人蔵
53.	ケース・ヴァン・ドンゲン	ソプラノ歌手モディエスコ	1907年	油彩、麻布	100×81.3	ニューヨーク近代美術館
54.	ケース・ヴァン・ドンゲン	アガート・ヴェゲリフ・グラヴェスタインの肖像	1909年	油彩、麻布	100×81	北海道立近代美術館
55.	モーリス・ド・ウラマンク	パイプをくわえた男	1900-01年	油彩、麻布	73×49.5	パリ国立近代美術館
56.	モーリス・ド・ウラマンク	台所	1904年	油彩、麻布	55×46	パリ国立近代美術館
57.	モーリス・ド・ウラマンク	麦畑と赤い家	1905年	油彩、麻布	60.0×73.0	静岡県立美術館
58.	モーリス・ド・ウラマンク	ブーヅヴァール	1905年	油彩、麻布	60.5×73.5	個人蔵
59.	モーリス・ド・ウラマンク	運河船	1905-06年	油彩、麻布	60.2×73.1	石橋財団ブリヂストン美術館
60.	モーリス・ド・ウラマンク	ラ・モールの踊り子	1905-06年	油彩、麻布	76.5×64	個人蔵 スイス
61.	モーリス・ド・ウラマンク	横たわる裸婦	1905-06年	油彩、麻布	27×41	個人蔵
62.	モーリス・ド・ウラマンク	赤い木	1906年	油彩、麻布	65×81	パリ国立近代美術館
63.	モーリス・ド・ウラマンク	シャトゥーのセヌ河岸の家並	1906-07年	油彩、麻布	54×64.5	個人蔵
64.	モーリス・ド・ウラマンク	シャトゥーのセヌ川	1906年頃	油彩、麻布	37.5×45.5	個人蔵
65.	モーリス・ド・ウラマンク	帆船	1907年頃	油彩、麻布	71.8×91.1	フリダルト財団
66.	エーリッヒ・ヘッケル	木彫のある静物	1913年	油彩、麻布	70.5×60.7	広島県立美術館
67.	エーリッヒ・ヘッケル	浜辺の二人の女	1913年	油彩、麻布	81×94	シュツットガルト州立美術館
68.	アレクセイ・フォン・ヤウレンスキー	黄色い麦わら帽子の婦人	1910年	油彩、麻布	86.5×73.5	個人蔵 スイス
69.	アレクセイ・フォン・ヤウレンスキー	座る裸婦	1910年	油彩、麻布	70×42	ミュンヘン市立レンバツパハハウス美術館
70.	アレクセイ・フォン・ヤウレンスキー	青い帽子	1912年	油彩、メゾナイト	65×54	個人蔵
71.	アレクセイ・フォン・ヤウレンスキー	扇を持つトルキスタンの女性	1912年	油彩、メゾナイト	68.1×50	フリダルト財団

72.	アレクセイ・フォン・ヤウレンスキー	白馬像のある静物	1912年	油彩、紙	54×50	個人蔵
73.	ヴァシリー・カンディンスキー	旅館グリースプロイの窓から見たヨハンニス通り	1908年	油彩、麻布	49.8×69.6	ミュンヘン市立レンバツパハハウス美術館
74.	ヴァシリー・カンディンスキー	ムルナウ教会のある風景 I	1909年	油彩、板	70×96	鯉淵コレクション 東京
75.	ヴァシリー・カンディンスキー	ムルナウグリューン小路	1909年	油彩、麻布	33×44.6	ミュンヘン市立レンバツパハハウス美術館
76.	ヴァシリー・カンディンスキー	ムルナウ歩道と家並	1909年	油彩、麻布	32.7×44.5	ミュンヘン市立レンバツパハハウス美術館
77.	ヴァシリー・カンディンスキー	オリエント風	1909年	油彩、麻布	69.5×96.5	ミュンヘン市立レンバツパハハウス美術館
78.	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	居酒屋	1909年	油彩、麻布	71×81	セントルイス美術館
79.	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	フレンツィの朝食	1909年	油彩、麻布	52×67	個人蔵
80.	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物	1912年	油彩、麻布	100.0×74.0	愛知県美術館
81.	アウグスト・マッケ	窓際の花	1910年	油彩、麻布	62×39	ミュンヘン市立レンバツパハハウス美術館
82.	マックス・ペヒシュタイン	赤い水浴場	1910年	油彩、麻布	70.5×81	個人蔵 スイス
83.	マックス・ペヒシュタイン	海辺の女たち	1919年	油彩、麻布	120×90	個人蔵
84.	カール・シュミット＝ロットルフ	夜の家並	1912年	油彩、麻布	95.6×87.4	ニューヨーク近代美術館
85.	カール・シュミット＝ロットルフ	葎の茂みのなかの裸婦	1913年	油彩、麻布	76.4×90.3	シュツットガルト州立美術館
86.	アンドレ・ドラン	緑色の服のアンドレ・ドラン夫人	1907年	油彩、麻布	73×60	ニューヨーク近代美術館
87.	アンドレ・ドラン	マルティエグ風景	1908年	油彩、麻布	100×81	北海道立近代美術館
88.	ラウル・デュフィ	ヴァンス風景	1908年	油彩、麻布	65×82	パリ市立近代美術館
89.	ラウル・デュフィ	横たわる裸婦	1909-10年	油彩、麻布	64×91	ボルドー美術館
90.	ラウル・デュフィ	ル・アーヴルの庭園と家	1915年	油彩、麻布	117×90	パリ市立近代美術館
91.	アンリ・マチス	チューリップ	1914年	油彩、麻布	100×73	マルボローファインアート東京
92.	アンリ・マチス	画家の娘	1918年	油彩、麻布	73.0×54.5	大原美術館
93.	モーリス・ド・ウラマンク	サン・ドニ風景	1908年	油彩、麻布	68×81	大原美術館
94.	モーリス・ド・ウラマンク	シャトゥー風景	1908-12年頃	油彩、麻布	65×81	個人蔵
95.	モーリス・ド・ウラマンク	静物	1910年	油彩、麻布	64.8×78.5	個人蔵

96.	梅原龍三郎	横臥裸婦	1908年	油彩、麻布	60.5×72.5	個人蔵
97.	梅原龍三郎	パリの雪景色	1908年	油彩、麻布	60.0×73.0	個人蔵
98.	梅原龍三郎	若き羅馬人	1909年	油彩、麻布	46.2×38.1	愛知県美術館
99.	梅原龍三郎	ノートルダム寺院	1921年	油彩、麻布	55.0×45.5	清春白樺美術館
100.	中村 肇	麦藁帽子の自画像	1911年	油彩、麻布	41.0×32.0	個人蔵
101.	中村 肇	風景	1912年頃	油彩、麻布	23.1×33.0	個人蔵
102.	中村 肇	少女像	1912年頃	油彩、麻布	44.4×37.2	メナード美術館
103.	中村 肇	牛乳瓶のある静物	1913年	油彩、麻布	33.5×45.5	個人蔵
104.	中村 肇	大島風景	1915年	油彩、麻布	59.5×59.5	個人蔵
105.	中村 肇	花	1923年	油彩、麻布	56.7×32.5	個人蔵
106.	萬 鐵五郎	裸体美人	1912年	油彩、麻布	161.0×95.7	東京国立近代美術館
107.	萬 鐵五郎	自画像(雲のある自画像)	1912年	油彩、麻布	59.5×45.9	岩手県立博物館
108.	萬 鐵五郎	自画像(あかい目の自画像)	1912年	油彩、麻布	60.7×45.5	岩手県立博物館
109.	萬 鐵五郎	女の顔(ボアの女)	1912年	油彩、麻布	80.3×65.2	岩手県立博物館
110.	萬 鐵五郎	風船をもつ女	1912年	油彩、麻布	72.4×52.9	岩手県立博物館
111.	萬 鐵五郎	風景・春	1912年	油彩、麻布	32.0×44.0	宮城県美術館
112.	萬 鐵五郎	木と塀のある風景	1912年	油彩、麻布	41.0×31.5	個人蔵
113.	萬 鐵五郎	日傘の裸婦	1913年	油彩、麻布	80.5×53.0	神奈川県立近代美術館
114.	萬 鐵五郎	習作	1913年	油彩、麻布	44.5×32.5	大原美術館
115.	萬 鐵五郎	かなきり声の風景	1918年	油彩、麻布	49.0×59.0	個人蔵
116.	岸田劉生	風景	1911年	油彩、板	24.2×33.3	個人蔵
117.	岸田劉生	街道(銀座風景)	1911年頃	油彩、麻布	33.5×45.5	石橋財団ブリヂストン美術館
118.	岸田劉生	自画像	1912年	油彩、麻布	33.3×24.1	東京都美術館
119.	岸田劉生	築地居留地風景	1912年	油彩、麻布	31.7×40.3	個人蔵

120.	岸田劉生	日比谷の本立	1912年頃	油彩、板	23.5×33.5	下関市立美術館
121.	岸田劉生	築地居留地風景	1912年頃	油彩、麻布	33.2×45.5	個人蔵
122.	岸田劉生	築地居留地	1913年	油彩、ボード	23.7×33.0	笠間日動美術館
123.	岸田劉生	B.L.の肖像(バーナード・リーチ像)	1913年	油彩、麻布	59.0×44.0	東京国立近代美術館
124.	木村莊八	虎の門付近	1912年	油彩、麻布	24.0×33.0	個人蔵
125.	木村莊八	祖母と猫	1912年	油彩、麻布	45.6×33.3	東京都美術館
126.	川上涼花	鉄路	1912年	油彩、麻布	59.7×45.7	東京国立近代美術館
127.	鈴木金平	有楽町付近	1913年	油彩、麻布	31.6×40.8	東京国立近代美術館
128.	小絲源太郎	人ごみ	1914年	油彩、麻布	80.0×80.0	個人蔵
129.	中川一政	板橋風景	1919年	油彩、麻布	50.0×60.0	東京国立近代美術館
130.	中川一政	監獄裏の落日	1919年	油彩、麻布	45.6×53.0	群馬県立近代美術館
131.	村山槐多	裸婦	1914-15年頃	油彩、麻布	60.8×41.0	久万美術館
132.	村山槐多	自画像	1914-15年頃	油彩、麻布	60.5×50.0	三重県立美術館
133.	柳瀬正夢	河と降る光と	1915年	油彩、麻布	45.5×60.5	個人蔵
134.	柳瀬正夢	風景	1915年頃	油彩、麻布	33.3×45.5	個人蔵
135.	中川紀元	風景	1920年	油彩、麻布	114.3×78.5	京都国立近代美術館
136.	中川紀元	ロダンの家	1920年	油彩、麻布	72.7×90.9	個人蔵
137.	中川紀元	栗色の帽子	1920年	油彩、麻布	90.8×72.8	東京国立近代美術館
138.	中川紀元	婦人像	1920年	油彩、麻布	144.5×57.5	京都国立近代美術館
139.	里見勝蔵	裸婦	1925年	油彩、麻布	79.7×115.7	愛知県美術館
140.	里見勝蔵	雪景	1925年頃	油彩、麻布	65.4×80.6	目黒区美術館
141.	前田寛治	少女と子供	1927年	油彩、麻布	145.5×112.0	鳥取県立博物館
142.	前田寛治	裸婦	1928年	油彩、麻布	112.0×114.0	神奈川県立近代美術館
143.	佐伯祐三	レ・ジュ・ド・ノエル	1925年	油彩、麻布	71.5×58.3	大阪市立近代美術館建設準備室

144.	佐伯祐三	オニーの牧場	1925年	油彩、麻布	60.0×80.3	下関市立美術館
145.	佐伯祐三	ガス燈と広告	1927年	油彩、麻布	65.0×100.0	東京国立近代美術館
146.	佐伯祐三	プティ・レストラン	1927年	油彩、麻布	54.1×65.2	個人蔵
147.	佐伯祐三	レストラン(オテル・ド・マルシュ)	1927年	油彩、麻布	51.7×64.0	大阪市立近代美術館建設準備室
148.	佐伯祐三	煉瓦焼場	1928年	油彩、麻布	58.5×71.5	大阪市立近代美術館建設準備室
149.	佐伯祐三	カフェレストラン	1928年	油彩、麻布	59.0×71.5	大阪市立近代美術館建設準備室
150.	佐伯祐三	黄色いレストラン	1928年	油彩、麻布	70.0×60.8	大阪市立近代美術館建設準備室
151.	児島善三郎	カテドラル・ド・ナント	1927年	油彩、麻布	65.0×80.0	個人蔵
152.	児島善三郎	鏡を持つ女	1928年	油彩、麻布	162.5×114.0	東京国立近代美術館
153.	野口弥太郎	門	1931年	油彩、麻布	73.0×60.8	個人蔵
154.	野口弥太郎	巴里の眺	1932年	油彩、麻布	130.5×193.5	福岡市美術館
155.	三岸好太郎	少年道化	1929年	油彩、麻布	78.0×63.0	東京国立近代美術館
156.	三岸好太郎	道化	1929年	油彩、麻布	73.2×54.5	北海道立三岸好太郎美術館
157.	熊谷守一	陽の死んだ日	1928年	油彩、麻布	49.5×60.5	大原美術館
158.	長谷川利行	洒売場	1927年	油彩、麻布	53.0×65.5	愛知県美術館
159.	長谷川利行	緩光の肖像	1929年	油彩、麻布	63.0×55.5	個人蔵
160.	長谷川利行	岸田国土像	1930年	油彩、麻布	74.0×54.0	東京国立近代美術館
161.	長谷川利行	ハーゲンベックのサーカス	1936年	油彩、麻布	53.3×73.0	福岡市美術館
162.	長谷川利行	新宿風景	1937年頃	油彩、麻布	46.0×53.0	東京国立近代美術館
163.	萬 鐵五郎	少女(校服のとみ子)	1923年	油彩、麻布	73.0×53.0	岩手県立博物館
164.	萬 鐵五郎	赤塀のある風景	1923年	油彩、麻布	40.0×31.5	個人蔵
165.	萬 鐵五郎	ねて居る人	1923年	油彩、麻布	79.5×116.0	北九州市立美術館
166.	萬 鐵五郎	ほほ杖の人	1926年	油彩、麻布	117.0×80.0	東京国立近代美術館
167.	萬 鐵五郎	水着姿	1926年	油彩、麻布	117.7×81.2	岩手県立博物館

168.	萬 鐵五郎	枯れた花の静物	1926年	油彩、麻布	50.5×61.0	個人蔵
169.	小出橋重	蔬菜静物	1925年	油彩、麻布	51.8×64.0	東京国立近代美術館
170.	小出橋重	横たわる裸女(B)	1928年	油彩、麻布	41.0×56.0	京都国立近代美術館
171.	小出橋重	裸女と白布	1929年	油彩、麻布	52.0×64.0	東京国立近代美術館
172.	小出橋重	海	1930年	油彩、麻布	64.5×79.3	東京国立近代美術館
173.	児島善三郎	鏡	1932年	油彩、麻布	162.0×96.7	福岡市美術館
174.	児島善三郎	箱根	1937年	油彩、麻布	130.5×162.5	静岡県立美術館
175.	児島善三郎	東風	1939年	油彩、麻布	72.0×90.3	個人蔵
176.	中川一政	樹の下の子供	1939年	油彩、麻布	91.0×116.7	松任市立中川一政記念美術館
177.	中川一政	少年像	1942年	油彩、麻布	71.5×59.5	大原美術館
178.	梅原龍三郎	椿	1915年	油彩、麻布	53.5×44.5	神奈川県立近代美術館
179.	梅原龍三郎	熱海風景	1917年	油彩、麻布	37.1×44.8	東京国立近代美術館
180.	梅原龍三郎	坐裸婦	1918年	油彩、麻布	53.3×45.4	東京国立近代美術館
181.	梅原龍三郎	竹窓裸婦	1937年	油彩、麻布	89.0×71.0	大原美術館
182.	梅原龍三郎	北京秋天	1942年	油彩、麻布	88.5×72.5	東京国立近代美術館

※出品作品の内、No3、107、110、138、163の各作品は愛知県美術館では展示されず、他会場で展示。

開館記念展第2部 近代の日本画—西洋との出会いと対話—

会期：平成5年1月5日(金)―2月11日(木)

主催：愛知県美術館

担当：村田真宏 松井秀法

日本の美術は、その時々海外からの影響を受けながら独自の展開をみせてきた。特に明治時代になって受けた西洋からの影響は、日本美術の性格を根本的に変えてしまうほどのものであった。それは日本という国家がとった西洋に範を求める近代化政策のもとで、美術の世界もそれと無縁でいることはできなかったことを示している。

西洋からの影響を受けての美術の展開といえば、まず西洋絵画の導入とその拡大がある。事実、江戸時代後半にさまざまな行われた洋風画の試みから、高橋由一などに代表される明治初期の西洋絵画の本格的な普及は、その影響の大きさを端的に示している。しかし、西洋美術の影響が、より深く決定的であったのはむしろ伝統絵画の世界であった。今日「日本画」と呼ばれている絵画は、米国人アーネスト・フェノロサの指導によって、狩野派を中心とする伝統絵画を西洋的な絵画理念によって変革し新しい絵画表現を確立しようとする試みに端を発している。つまり近代の日本画は、西洋との出会いがあつてはじめて成立したものといえることができる。

この展覧会では、その視点にたつて明治から昭和前半期までの日本画の成立とその展開を、西洋との関係を軸に整理し、その時期ごとに画家たちが取り組んだ問題に焦点をあて、日本画の性格と意味を浮き彫りにすることをめざした。そこで全体を以下のように5章として構成し、さらに各章のなかにいくつかの節を設けた。

第1章 西洋の絵画理念の流入

第1節 フェノロサと鑑画会

第2節 岡倉天心と朦朧体

第2章 写生のさまざまな試み

第1節 実用的自然観と南画の融合の試み

第2節 无声会の自然主義とその周辺

第3節 四条派の近代化

第3章 自己表現と社会への眼差し

第1節 後期印象派の流入と感性の解放

第2節 世紀末芸術への接近

第4章 日本画材の可能性の追求

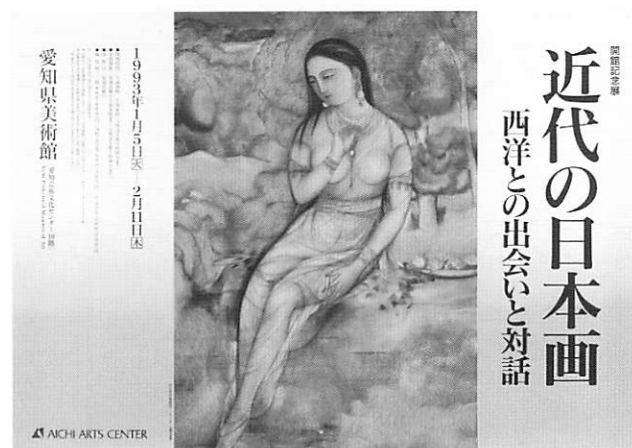
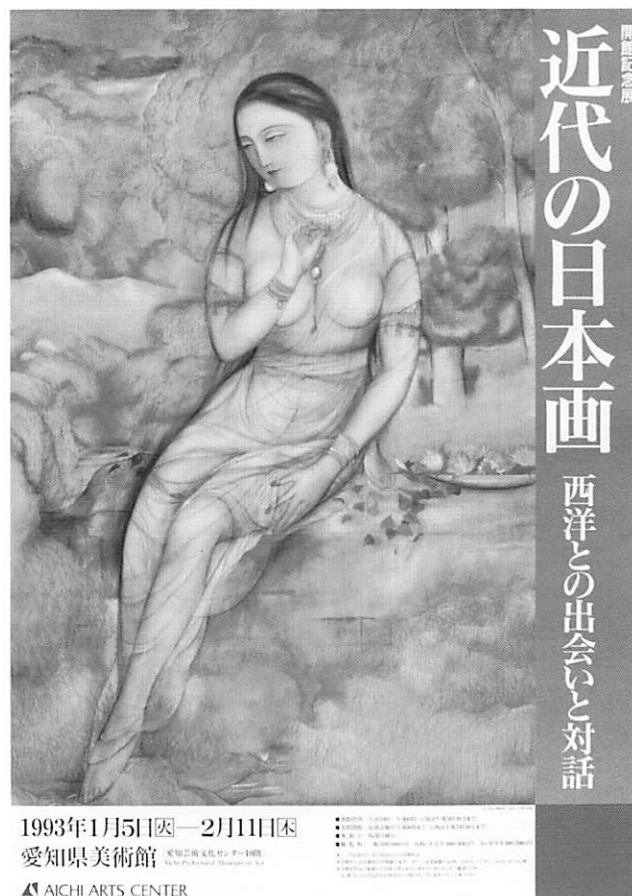
第1節 ルネサンス美術との親和

第2節 日本画の細密描写

第5章 モダニズムの摂取と戦後日本画への胎動

以上の構成により、51作家101件の作品によってこの展覧会が実現した。幸い各所蔵先から日本画の成立と展開を語るうえで欠かすことのできない重要な作品を借用することができ、この

展覧会で設定した視点を具体的な作例によって、かなりの程度確認することができたと考えている。ただ、第5章については、展示空間の制約などから、十分にその様相を紹介することはできなかった。機会があれば、戦後の展開と結び付けたかたちで紹介したいと考えている。

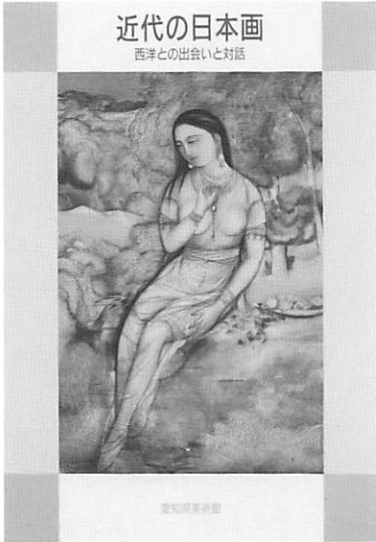


観覧料：一般800(600)円／高校・大学生600(400)円
小・中学生300(200)円
()内は前売り及び20名以上の団体料金

総入場者数：26,166人
1日平均入場者数：793人

カタログ：A4判 170ページ

編集・発行 愛知県美術館
制作 株式会社 便利堂
1993.1発行
別刷り(カタログ章解説等の英訳冊子)
A4判 20ページ



カタログ表紙

関連行事

- 1) 第1回記念講演会：1月23日(土)
講師：小嶋悠司氏(京都市立芸術大学助教授)
- 2) 第2回記念講演会：1月31日(日)
講師：小倉忠夫氏
(名古屋ホストン美術館設立準備委員会常任顧問)

主要関連記事

- 《定期刊行物》
村田真宏：「外的要因から始まった日本画」
『月刊美術』1993年1月号
- 《新聞》
小倉忠夫：「〈近代の日本画〉展に寄せて」
読売新聞1993年1月22日朝刊
「変遷たどる必見企画〈近代の日本画〉」
朝日新聞1993年2月6日夕刊

出品作品

No	作家名 制作年	作品名 技法、材質	大きさ(タテ×ヨコ)cm	所蔵
1.	狩野芳崖 1882年	地中海真景図 紙本墨画	37.2×65.6	個人蔵
2.	狩野芳崖 1887年	懸崖飛沫図 絹本墨画	30.4×31.5	山口県立美術館
3.	橋本雅邦 1885-87年	秋景山水 紙本墨画淡彩	61.6×126.0	愛知県美術館
4.	橋本雅邦 1893年	山水図 絹本墨画淡彩	99.3×159.9	東京国立博物館
5.	橋本雅邦 制作年不詳	雪谿帰牧図 紙本墨画淡彩	39.9×59.7	遠山記念館
6.	橋本雅邦 1881年頃	水雷命中 油彩、麻布	57.0×86.2	東京国立博物館
7.	菱田春草 1900年	伏姫 絹本着色	144.6×67.6	長野県信濃美術館
8.	菱田春草 1901年	羅浮仙 絹本着色	124.6×67.8	長野県信濃美術館
9.	横山大観 1902年	秋の夕 絹本着色	121.1×50.5	セゾン現代美術館
10.	菱田春草 1902年	春の朝 絹本着色	121.7×50.5	セゾン現代美術館
11.	菱田春草 1909年	落葉 紙本着色	各154.2×354.3(六曲一双)	福井県立美術館
12.	横山大観 1900年	月蓬萊山図 絹本墨画淡彩	98.0×154.0	静岡県立美術館
13.	下村観山 1900年	日蓬萊山図 絹本墨画淡彩	98.0×154.0	静岡県立美術館
14.	横山大観 1900年頃	飛泉 絹本着色	110.1×49.1	愛知県美術館
15.	横山大観 1902年	迷児 絹本裏箔木炭	185.0×142.0	個人蔵
16.	横山大観 1911年	山路 絹本着色	151.1×69.4	京都国立近代美術館
17.	下村観山 1900年頃	長安一片月 絹本墨画	80.0×140.0	松岡美術館
18.	下村観山 1904年	《椅子の聖母》模写(ラファエルロ作) 絹本着色	56.0×54.5	横浜美術館
19.	下村観山 1904年	《ナイト・エラント》模写(J.E.ミレイ作) 紙本着色	101.0×75.0	横浜美術館
20.	西郷孤月 1900年頃	怒涛、瀑布 絹本着色	各116.6×50.3	個人蔵
21.	西郷孤月 1901年頃	主の救い 絹本着色	93.2×48.5	長野県信濃美術館
22.	橋本雅邦 1902年頃	江畔帰農 紙本墨画着色	61.0×91.2	セゾン現代美術館
23.	川合玉堂 1907年	二日月 絹本着色	86.2×139.5	東京国立近代美術館

24.	高島北海	富士登山図	1871年	水彩、紙	各13.5×19.2(4面)	下関市立美術館
25.	高島北海	山水図	1908年	絹本着色	128.5×51.3	東京国立博物館
26.	小坂象堂	野辺	1898年	絹本着色	85.0×112.0	東京芸術大学芸術資料館
27.	結城素明	無花果	1907年	紙本着色	158×90.8	東京芸術大学芸術資料館
28.	平福百穂	獵夫	1903年	絹本着色	162.6×92.3	個人蔵
29.	平福百穂	アイヌ	1907年	絹本着色	136.5×68.5	個人蔵
30.	竹内栖鳳	ベニスの月	1904年	絹本墨画淡彩	220.0×174.5	高島屋史料館
31.	竹内栖鳳	狐狸図	1908年頃	絹本墨画淡彩	各166.5×373.0(六曲一双)	愛知県美術館
32.	山元春挙	ロッキー山の雪	1905年	絹本墨画淡彩	221.0×174.5	高島屋史料館
33.	山元春挙	塩原の奥	1909年	絹本着色	各41.2×359.0(4巻)	東京国立近代美術館
34.	山元春挙	溪村暮靄図	1897年頃	絹本着色	137.0×63.0	愛知県美術館
35.	千種掃雲	海女	1908年	絹本着色	173.0×115.0	京都国立近代美術館
36.	入江波光	北野の裏の梅	1911年	絹本着色	85.5×148.0	京都市立芸術大学芸術資料館
37.	村上華岳	二月之頃	1911年	絹本着色	113.5×132.0	京都市立芸術大学芸術資料館
38.	小野竹喬	洛外の山家	1906年頃	絹本着色	128.0×141.6(二曲一隻)	笠岡市立竹喬美術館
39.	小野竹喬	暮るる冬の日	1910年	絹本着色	133.0×192.0	笠岡市立竹喬美術館
40.	土田麦僊	罰	1908年	紙本着色	154.3×198.8	京都国立近代美術館
41.	野長瀬晩花	被布着たる少女	1911年	絹本着色	114.4×135.0	和歌山県立近代美術館
42.	今村紫紅	水汲む女、牛飼う男	1914年	絹本着色	各137.0×32.2	平塚市美術館
43.	今村紫紅	細雨	1915年	絹本着色	141.0×56.0	横浜美術館
44.	速水御舟	紙すき場	1914年	絹本着色	233.0×55.6	東京国立博物館
45.	土田麦僊	梅ヶ畑村	1914年	絹本着色	145.0×50.8	和歌山県立近代美術館
46.	野長瀬晩花	初夏の流れ	1918年	絹本着色	176.5×557.0(六曲一隻)	京都市美術館
47.	小野竹喬	風景	1911年	絹本着色	68.2×67.9	京都市立芸術大学芸術資料館

48.	小野竹喬	郷土風景	1917年	絹本着色	175.0×176.0(二曲一隻)	京都国立近代美術館
49.	尾竹竹坡	無題	1920年頃	絹本着色	各143.7×83.6(三幅対)	宮城県美術館
50.	川端龍子	慈悲光礼賛(朝・夕)	1918年	絹本着色	各140.0×150.0	東京国立近代美術館
51.	玉村方久斗	山路	1920年代	絹本着色	141.0×50.0	青梅市立美術館
52.	伊東深水	大島の黎明	1916年	絹本着色	156.0×76.6	愛知県美術館
53.	川崎小虎	うどんげの花を植える	1912年	紙本着色	80.0×51.0	岐阜県美術館
54.	川崎小虎	教会堂の夜	1912年頃	紙本着色	43.0×63.0	山梨県立美術館
55.	広島晃甫	青衣の女	1919年	絹本着色	164.0×90.0	東京国立近代美術館
56.	野長瀬晩花	島の子	1916年	紙本着色	145.3×51.7	和歌山県立近代美術館
57.	佐藤光華	三五夜中	1919年	絹本着色	218.0×83.0	京都市立芸術大学芸術資料館
58.	秦テルヲ	淵に佇めば	1917年	麻本着色	44.8×52.6	星野画廊
59.	秦テルヲ	女たち	1919年頃	麻本着色	72.7×100.0	京都国立近代美術館
60.	徳岡神泉	狂女	1919年	絹本着色	96.5×56.5	東京国立近代美術館
61.	甲斐庄楠音	横櫛	1918年	絹本着色	164.5×71.4	広島県立美術館
62.	岡本神草	口紅	1918年	絹本着色	135.9×137.4(二曲一隻)	京都市立芸術大学芸術資料館
63.	宇田荻邨	南座	1922年	絹本着色	117.3×87.3	個人蔵
64.	宇田荻邨	木陰	1922年	絹本着色	137.9×140.0(二曲一隻)	三重県立美術館
65.	池田遙邨	貧しき漁夫	1925年	絹本着色	164.0×176.0	倉敷市立美術館
66.	池田遙邨	伐られた株	1923年	絹本着色	41.5×51.5	倉敷市立美術館
67.	池田遙邨	丘の道	1923年	絹本着色	41.5×51.5	倉敷市立美術館
68.	梶原緋佐子	暮れゆく停留所	1918年	紙本着色	189.0×83.0	京都市美術館
69.	村上華岳	裸婦図	1920年	絹本着色	163.5×109.1	山種美術館
70.	入江波光	彼岸	1920年	絹本着色	181.0×228.5(三曲一隻)	京都市美術館
71.	入江波光	南欧小景	1923年	絹本着色	36.0×41.0	愛知県美術館

72.	入江波光	叢と子供	1925年	絹本着色	40.5×51.0	何必館京都現代美術館
73.	小野竹斎	春耕	1924年	絹本着色	165.0×161.0(二曲一隻)	笠岡市立竹斎美術館
74.	野長瀬晩花	スペインの田舎の子供	1924年	寒冷紗本着色	110.0×136.0(二曲一隻)	和歌山県立近代美術館
75.	菊池契月	南波照間	1928年	絹本着色	224.0×176.0	京都市美術館
76.	菊池契月	《栄光の聖母》模写(ジョット作)	1922-23年	紙本着色	48.0×36.0	京都国立近代美術館
77.	菊池契月	《受胎告知》模写(ジョット作)	1922-23年	紙本着色	25.0×17.0	京都国立近代美術館
78.	土田麦僊	ベトゥイユ風景	1922年	麻布、テンペラ	45.8×61.0	大原美術館
79.	速水御舟	洛北修学院村	1918年	絹本着色	131.7×97.0	滋賀県立近代美術館
80.	速水御舟	西郊小景	1923年	紙本着色	44.5×39.7	愛知県美術館
81.	小茂田青樹	柿	1919年頃	紙本着色	28.6×20.4	愛知県美術館
82.	小茂田青樹	漁村早春	1921年	紙本着色	74.0×112.0	愛知県美術館
83.	小茂田青樹	ボンボンダリア	1922年	絹本着色	78.9×56.0	横浜美術館
84.	小林古径	静物	1922年	麻布、油彩	36.7×45.0	山種美術館
85.	小林古径	麦	1919年	紙本着色	144.0×105.0	東京国立博物館
86.	村上華岳	早春風景図	1919年	絹本着色	143.0×50.7	中野美術館
87.	榊原紫峰	早春	1918年頃	絹本着色	134.0×51.4	足立美術館
88.	榊原紫峰	静物の図	1917年頃	絹本着色	69.7×85.7	足立美術館
89.	土田麦僊	鮭ノ図	1924年	紙本着色	41.4×51.6	新潟県美術博物館
90.	榊原始更	笛	1926年頃	絹本着色	37.5×47.2	滋賀県立近代美術館
91.	杉田勇次郎	蔬菜	1925年頃	絹本着色	45.7×52.7	和歌山県立近代美術館
92.	石川晴彦	山茶花を持てる女	1926年	絹本着色	83.9×65.6	京都市美術館
93.	吹田草牧	ボジリボの漁家	1923年	絹本着色	72.5×88.0	京都国立近代美術館
94.	中村岳陵	都会女性職譜	1933年	紙本着色	各36.5×39.5(7面)	三重県立美術館
95.	吉岡堅二	小憩	1933年	紙本着色	200.0×185.0	東京国立近代美術館

96.	福田豊四郎	夏郷	1934年	紙本着色	212.0×182.0(二曲一隻)	秋田県立博物館
97.	田口 壮	季節の停止	1938年	紙本着色	112.2×78.5	大分県立芸術会館
98.	岩橋英遠	歴史	1940年	紙本着色	167.0×183.0(二曲一隻)	個人蔵
99.	山岡良文	朝鮮古廟	1938年	紙本着色	各60.5×72.0(3面)	個人蔵
100.	新見虚舟	漁港	1928年	絹本着色	145.0×202.0	京都国立近代美術館
101.	船田玉樹	花の夕	1938年	紙本着色	181.8×363.6(四曲一隻)	個人蔵

開館記念展第3部 20世紀 愛知の美術

会期：1993年2月19日(金)～3月21日(日)

主催：愛知県美術館

担当：木本文平 深山孝彰

東京と京都の間に位置し、豊かな風土と江戸期以来の独自の文化を有した明治の愛知県域では、土佐派や南画などの伝統絵画諸流派と中央からもたらされた洋画を合わせた大きな画壇が形成され、大正から昭和にかけて、中央や海外の新しい動きを追いながら様々なグループが生まれ展開する土壌となった。戦後はそれらを基盤に、地域内での活発な人的交流や教育を含めた美術振興がはかれる一方、その枠を脱して今日的・国際的な視野をもつ作家や、地域性と世界性を兼ね備えた優れた作家も多く輩出するようになっている。本展は、明治から一世紀余りの愛知の美術の歩みを93作家131点でたどり、現在の位置と将来を展望しようとするものであった。

展示会は、第1章「明治期 画壇の成立」から始まり、第2章「大正から昭和へー日本画の動向」、第3章「大正から昭和へー洋画の動向」、第4章「戦後の復興と新時代への幕開け」、第5章「多様化の時代」までの5つの章に区分し、各時代の特色を抽出する構成とした。その結果、総論的な展示会となったが、愛知県においてこの趣旨による企画は初めてであったということもあって、関係各方面からの反響には大きなものがあつた。ただ、限られた展示空間での開催という物理的な制約もあり、万全な構成・内容であったとは断言できない面もある。特に、時間的にも情報的にも圧倒的な量をもつ戦後の展開については、再度検証の必要性を感じている。

観覧料：一般700(500)円/高校・大学生500(300)円

小・中学生300(200)円

() 内は前売り及び20名以上の団体料金

総入場者数：11,585人

一日平均入場者数：429人

カタログ：A4版 164ページ

編集・発行 愛知県美術館

制作 株式会社 大塚巧藝社

1993.2発行

関連行事：1) 第1回記念講演会：2月27日(土)

「実験の時代ー美術とヒューマニズムと風土」

講師：西沢信正氏 (名古屋造形芸術短期大学教授)

2) 第2回記念講演会：3月6日(土)

「芸術活動ー地域性と国際性」

対談：酒井忠康氏 (神奈川県立近代美術館長)

中村英樹氏

(美術評論家・名古屋造形芸術大学教授)

司会：浅野 徹 (愛知県美術館長)

AICHI ARTS CENTER



20th Century Art in Aichi 20世紀 開館記念展 愛知の美術

2月19日(金)ー3月21日(日) 1993年

愛知県美術館 Aichi Prefectural Museum of Art
愛知芸術文化センター10階
観覧料：一般700(500)円/高校・大学生500(300)円/小・中学生300(200)円/団体料金：20名以上10,000円



2月19日(金)ー3月21日(日) 1993年

愛知県美術館 Aichi Prefectural Museum of Art
愛知芸術文化センター10階

AICHI ARTS CENTER

20th Century Art in Aichi

20世紀 開館記念展 愛知の美術



20世紀 愛知の美術
20th Century Art in Aichi



愛知県美術館

カタログ表紙

主要関係記事

《新聞》

小川 潔:「展覧会訪問—絵画、立体130点で100年の軌跡たどる」
名古屋タイムズ 1993年2月18日

中村 英樹:「地域美術の自己検証へ—『20世紀愛知の美術展』
実感」

読売新聞 1993年3月5日
「100年を5つに分類し構成—『20世紀愛知の美術展』」

朝日新聞 1993年3月6日夕刊
西沢 信正:「20世紀愛知の美術展に寄せて—新たな実験の時代へ」

中日新聞 1993年3月10日夕刊
三頭谷鷹史:「表現と批評—視線さえぎる歳月の壁」

朝日新聞 1993年4月2日夕刊

出品作品

No.	作家名		作品名		所蔵
	制作年	技法、材質	大きさ(タテ×ヨコ×奥ユキ)cm		

第1章 明治期 画壇の成立

1	渡辺小華	涉園九友図	1874年	絹本着色	142.3×69.8	個人蔵
2	川崎千虎	佐々木高綱被甲図	1884年	絹本着色	125.0×56.0	愛知県美術館
3	川崎千虎	夕涼み風景	不詳	紙本着色	118.0×52.0	愛知県美術館
4	山本梅莊	古澗秋色之図	1908年	絹本着色	168.5×72.0	個人蔵
5	岡本柳南	雪中蜀山道	不詳	絹本墨彩	124.2×40.8	個人蔵
6	岡本柳南	不老長春 双禽	1916年	絹本着色	146.5×51.1	個人蔵
7	鎗木華国	蓮池白鷺図	1932年	絹本着色	123.3×42.6	個人蔵
8	石河有蘇	青鸞獻寿	1925年	絹本着色	128.5×50.9	個人蔵
9	石河有蘇	柳桃黄鳥図	1938年	絹本着色	151.7×51.9	個人蔵

《洋画》

10	野崎華年	衣冠人物図	不詳	油彩、麻布	52.0×39.0	名古屋市美術館
11	野崎華年	柴刈	不詳	水彩、紙	63.5×46.3	個人蔵
12	鈴木不知	山畑	1910年	油彩、麻布	46.0×61.0	愛知県美術館
13	鈴木不知	冬瓜	不詳	油彩、麻布	45.5×60.7	名古屋市美術館

第2章 大正から昭和へ—日本画の動向

14	森村宜稲	明治天皇収穫穀覧図	1926年	絹本着色	64.5×75.0	熱田神宮
15	森村宜稲	四季草花図	不詳	絹本着色	168.0×726.0(六曲一双)	愛知県美術館
16	織田杏逸	花鳥図	不詳	絹本着色	112.0×42.0	個人蔵
17	加藤英舟	秋園	1927年	絹本着色	171.0×185.0(二曲一隻)	京都市美術館
18	佐藤空鳴	村の細道	1920年	絹本着色	112.0×120.0(二曲一隻)	京都市立芸術大学
19	渡辺幾春	若き女	1922年	絹本着色	160.0×150.0(二曲一隻)	名古屋市美術館
20	平岩三陽	麦秋の頃村は賑ふ	1926年	絹本着色	184.5×195.0	岡崎市美術館

21	喜多村麦子	暮れ行く堀川	1928年	絹本着色	112.8×146.8	名古屋市美術館
22	石川英鳳	落花	1924年	絹本着色	188.0×182.2(二曲一隻)	専修坊
23	朝見香城	柳影	1925年頃	紙本着色	174.0×370.0(六曲一隻)	愛知県美術館
24	横山葩生	太子堂	昭和初期	絹本着色	54.0×43.0	名古屋市美術館
25	横山葩生	山峡の浅春	1929年	絹本着色	217.3×146.5	愛知県美術館
26	石川英鳳	猿猴之図	1935年頃	絹本着色	200.0×75.0	愛知県美術館
27	水谷芳年	花鳥図屏風	不詳	絹本着色	177.0×366.0(六曲一隻)	名古屋市美術館
28	和田青雨	田舎の家	1937年	絹本着色	169.0×196.0	岡崎市立菱中学校
29	藤井達吉	富士あざみの花	大正末	絹本着色	130.2×40.5	個人蔵
30	藤井達吉	海辺の月	1935年頃	紙本着色	90.0×53.0	愛知県美術館
31	服部有恒	燈籠大臣(平重盛)	1927年	絹本着色	169.0×101.0	武蔵野美術大学美術資料図書館
32	白井烟嵩	秋林塔影	1934年	紙本淡彩	254.0×151.0	豊橋市美術館
33	川崎小虎	こだま	1930年	紙本着色	225.0×180.0	東京国立近代美術館
34	篠田柏邦	黄衣	1934年	絹本着色	134.5×185.5	岐阜県美術館
35	森 緑翠	檜	1943年	紙本着色	195.0×104.0	京都市美術館
36	我妻碧宇	樹	1942年	紙本着色	182.0×364.0(二曲一双)	名古屋造形芸術大学

第3章 大正から昭和へー洋画の動向

37	山本 鼎	裸婦	1915年	油彩、麻布	60.5×45.5	東京国立近代美術館
38	太田三郎	婦人像	1915年頃	油彩、麻布	45.8×53.1	愛知県美術館
39	太田三郎	カフェーの女	1912-15年	木版、紙	21.0×11.1	東京都美術館
40	島田卓二	桂川附近	1917年	油彩、麻布	80.5×116.8	豊橋市美術館
41	大沢鉦一郎	大曽根風景	1919年	油彩、麻布	50.3×65.6	愛知県美術館
42	大沢鉦一郎	ジンベを着た少女	1920年	油彩、麻布	72.8×52.5	愛知県美術館
43	大沢鉦一郎	眠れる犬	1923年	油彩、麻布	65.1×91.9	常滑市教育委員会

44	宮脇 晴	自画像	1920年	油彩、麻布	81.0×61.0	愛知県美術館
45	宮脇 晴	お手玉の少女	1922年	油彩、麻布	80.5×65.4	愛知県美術館
46	横井礼以	庭	1925年	油彩、麻布	62.0×64.0	個人蔵
47	横井礼以	室内静物	1926年	油彩、麻布	94.0×130.0	愛知県美術館
48	高須光治	婦人像	1928-30年	油彩、麻布	145.6×89.6	豊橋市美術館
49	細井文次郎	ゴブラン織の前	1934年	油彩、麻布	90.9×72.8	豊橋市美術館
50	近藤孝太郎	異邦人(『版画』2所収)	1925年	木版、紙	16.0×11.5	岡崎市図書館
51	近藤孝太郎	海の見える風景(『試作』2所収)	1925年	木版、紙	18.0×23.0	岡崎市図書館
52	西村千太郎	納屋橋風景	1930年	油彩、麻布	65.0×80.0	個人蔵
53	坂井範一	浴後	1936年	油彩、麻布	160.5×110.5	愛知県美術館
54	荻野正雄	砂上	1939年	油彩、麻布	162.0×131.0	個人蔵
55	笈 忠治	正面の顔1	1930年	インク、紙	42.6×33.1	愛知県美術館
56	尾沢辰夫	鴨	1938年	油彩、麻布	162.0×97.0	愛知県美術館

《渡仏した洋画家たち》

57	加藤静児	渚	1910年	油彩、麻布	80.3×116.7	愛知県美術館
58	加藤静児	欧州風景	1920年頃	油彩、麻布	91.0×116.5	愛知県立津島高校
59	荻須高德	庭	不詳	油彩、麻布	60.0×73.0	愛知県立津島高校
60	安藤邦衛	ラ・セーヌ	1927年	油彩、麻布	49.0×60.0	愛知県美術館
61	鬼頭甕二郎	裸婦	1927年	油彩、麻布	92.0×73.0	個人蔵
62	太田三郎	三嬌図	1929年	油彩、麻布	160.5×212.5	愛知県美術館
63	宮田重雄	パリ、サンレイ病院裏	1930年	油彩、麻布	59.9×73.4	愛知県美術館
64	佐分 真	午後	1932年	油彩、麻布	130.0×162.3	東京国立近代美術館
65	伊藤 廉	窓に倚る女	1929年	油彩、麻布	92.5×73.0	東京藝術大学美術資料館
66	伊藤 廉	石榴・無花果	1935年	油彩、麻布	41.0×100.0	個人蔵

67	小堀四郎	影	1927年	油彩、麻布	130.5×89.5	個人蔵
----	------	---	-------	-------	------------	-----

68	小堀四郎	黄衣の女	1932年	油彩、麻布	161.5×114.0	個人蔵
----	------	------	-------	-------	-------------	-----

《サンサンオンの洋画家たち》

69	鬼頭鍋三郎	夏花図	1924年	油彩、麻布	45.5×38.0	個人蔵
----	-------	-----	-------	-------	-----------	-----

70	鬼頭鍋三郎	風景	1929年	油彩、麻布	73.0×91.3	個人蔵
----	-------	----	-------	-------	-----------	-----

71	鬼頭鍋三郎	手をかざす女	1934年	油彩、麻布	193.9×130.3	名古屋市美術館
----	-------	--------	-------	-------	-------------	---------

72	松下春雄	五月野茨を摘む	1925年	水彩、紙	60.5×81.0	個人蔵
----	------	---------	-------	------	-----------	-----

73	松下春雄	木の間より	1926年	水彩、紙	45.5×60.0	個人蔵
----	------	-------	-------	------	-----------	-----

74	松下春雄	二人のポーズ	1933年	油彩、麻布	177.0×142.5	愛知県美術館
----	------	--------	-------	-------	-------------	--------

75	中野安次郎	姉妹	1933年	油彩、麻布	162.0×130.3	個人蔵
----	-------	----	-------	-------	-------------	-----

76	中野安次郎	樹氷	1936年	油彩、麻布	130.5×162.3	愛知県美術館
----	-------	----	-------	-------	-------------	--------

《前衛芸術の台頭》

77	下郷羊雄	パンチュール	1936年	油彩、麻布	40.0×31.0	名古屋市美術館
----	------	--------	-------	-------	-----------	---------

78	下郷羊雄	作品	1938年	油彩、麻布	53.3×65.5	名古屋市美術館
----	------	----	-------	-------	-----------	---------

79	岡田 徹	黄昏による暗示	1937年	油彩、麻布	61.0×73.0	岐阜県美術館
----	------	---------	-------	-------	-----------	--------

80	岡田 徹	未熟のリンゴ	1940年	油彩、麻布	45.8×37.7	岐阜県美術館
----	------	--------	-------	-------	-----------	--------

81	吉田三伸	葉に因る絵画	1940年	油彩、麻布	45.4×52.8	名古屋市美術館
----	------	--------	-------	-------	-----------	---------

82	山田光春	森	1937年	油彩、ガラス	35.0×45.0	個人蔵
----	------	---	-------	--------	-----------	-----

第4章 戦後の復興と新時代への幕開け

《日本画》

83	我妻碧宇	大仏殿暮色	1950年	紙本着色	183.0×159.3	愛知県美術館
----	------	-------	-------	------	-------------	--------

84	市野 享	こいさぎと月	1952年頃	紙本着色	155.0×156.0(二曲一隻)	個人蔵
----	------	--------	--------	------	-------------------	-----

85	田島 康	双による作品	1949年	紙本着色	60.7×72.8	個人蔵
----	------	--------	-------	------	-----------	-----

86	堀尾 実	鳳	1953年	紙本着色	172.0×367.0(六曲一双)	愛知県美術館
----	------	---	-------	------	-------------------	--------

87	水谷勇夫	戦争そしてセックスー獣姦	1964年	紙本着色	162.0×130.7	個人蔵
----	------	--------------	-------	------	-------------	-----

88	中村正義	男と女	1963年	紙本着色	162.0×226.5	豊橋市美術館
----	------	-----	-------	------	-------------	--------

89	中村正義	おそれA	1974年	紙本着色	130.3×162.1	豊橋市美術館
----	------	------	-------	------	-------------	--------

90	平川敏夫	樹炎	1974年	紙本着色	145.0×100.0	東京国立近代美術館
----	------	----	-------	------	-------------	-----------

91	星野真吾	破局の譜	1980年	紙本着色	122.0×182.6	豊橋市美術館
----	------	------	-------	------	-------------	--------

92	片岡球子	面構 喜多川歌麿・鳥居清長	1972年	紙本着色	188.0×352.0(四曲一隻)	神奈川県立近代美術館
----	------	---------------	-------	------	-------------------	------------

93	内田土卵	菩薩	1974年	紙本着色	223.0×176.5	岡崎市美術館
----	------	----	-------	------	-------------	--------

94	森 緑翠	グラナダ回想	1986年	紙本着色	130.8×78.8	豊橋市美術館
----	------	--------	-------	------	------------	--------

95	嶋谷自然	阿蘇	1981年	紙本着色	224.2×151.5	愛知県美術館
----	------	----	-------	------	-------------	--------

《洋画》

96	北川民次	岩山に茂る	1940年	テンペラ、麻布	130.3×162.0	個人蔵
----	------	-------	-------	---------	-------------	-----

97	北川民次	南国の花	1940年	油彩、麻布	116.7×91.0	愛知県美術館
----	------	------	-------	-------	------------	--------

98	北川民次	雑草の如くIII(裸婦)	1949年	油彩、麻布	130.3×162.0	静岡県立美術館
----	------	--------------	-------	-------	-------------	---------

99	鬼頭鍋三郎	椅子による	1947年	油彩、麻布	116.7×90.9	東京国立近代美術館
----	-------	-------	-------	-------	------------	-----------

100	鬼頭鍋三郎	マドモアゼル M	1954年	油彩、麻布	91.0×72.8	愛知県美術館
-----	-------	----------	-------	-------	-----------	--------

101	鬼頭鍋三郎	二人のバレリーナ	1952年	油彩、麻布	100.0×80.3	愛知県美術館
-----	-------	----------	-------	-------	------------	--------

102	杉本健吉	博物館中央	1942年	油彩、麻布	116.0×91.0	東京国立博物館
-----	------	-------	-------	-------	------------	---------

103	杉本健吉	桂林斜陽	1987年	油彩、麻布	65.0×91.0	杉本美術館
-----	------	------	-------	-------	-----------	-------

104	伊藤 廉	鳩と水差	1948年	油彩、麻布	60.5×72.5	愛知県立芸術大学資料館
-----	------	------	-------	-------	-----------	-------------

105	三岸節子	魚とインカの壺	1952年	油彩、麻布	60.5×90.5	愛知県美術館
-----	------	---------	-------	-------	-----------	--------

106	市野長之介	母と子	1952年	油彩、麻布	116.2×91.2	愛知県美術館
-----	-------	-----	-------	-------	------------	--------

107	鈴木三五郎	静物	1965年	油彩、麻布	112.3×145.2	愛知県美術館
-----	-------	----	-------	-------	-------------	--------

108	辻 親造	さびたトタン	1951年	油彩、麻布	116.0×91.0	個人蔵
-----	------	--------	-------	-------	------------	-----

109	坪内節太郎	青鎌倉	1961年	油彩、麻布	90.9×72.7	岐阜県美術館
-----	-------	-----	-------	-------	-----------	--------

110	水谷 清	絵を描く女	1953年	油彩、麻布	79.0×137.0	岐阜県美術館
111	魚津良吉	水郷	1963年	油彩、麻布	72.8×91.0	愛知県美術館
112	荻須高德	サン・ドニ(2)	1964年	油彩、麻布	90.9×116.7	愛知県美術館
113	坂井範一	古い物語 B	1970年	油彩、麻布	145.5×96.9	愛知県美術館
114	島田章三	石庭女人図	1976	油彩、麻布	162.0×194.0	個人蔵
115	笠井誠一	室内(観葉植物のある)	1988年	油彩、麻布	116.7×90.9	個人蔵
116	浅野弥衛	Untitled A	1966年	油彩、麻布	72.7×90.9	愛知県立芸術大学資料館
117	吉本 弘	Metamorphosis (OC-3)	1991年	油彩、麻布	162.2×130.3	個人蔵

《彫刻》

118	野々村一男	人間告訴	1952年	ブロンズ	180×95×42	愛知県美術館
119	野水 信	コの記号65-3	1965年	鉄	362.7×90.9×90.8	個人蔵
120	石田 清	野生	1970年	ブロンズ	107.5×84.0×88.0	愛知県美術館
121	高藤鎮夫	心	1970年	ブロンズ	173.0×39.0×63.0	個人蔵

第5章 多様化の時代

122	久野 真	鋼鉄による作品	1959年	油彩、布・石膏・鉄・板	182.0×364.0	名古屋市美術館
123	桑山忠明	茶白青	1968年	アクリル、綿布、クロムストリップ	304.2×101.6	愛知県美術館
124	荒川修作	Blank Stations	1981-82年	アクリル、麻布	305.0×642.0	愛知県美術館
125	河原 温	DEC. 23, 1983	1983年	アクリル、麻布 新聞、ボール紙ケース	66.5×91.5	世田谷美術館
126	横田伸也	風景断片	1985年	油彩、麻布	182.0×227.0	東京国立近代美術館
127	山本富章	Untitled	1987年	ミクストメディア	245×236×61	個人蔵
128	金子 潤	Untitled	1989年	陶	169×83×47.5	個人蔵
129	石黒緒二	フク	1968年	鉄	80.0×54.0×34.0	個人蔵
130	国島征二	Untitled '91-17	1991年	白御影石、ブロンズ	27.0×87.0×47.0	個人蔵
131	庄司 達	浮かぶ布 No.9(赤)	1993年	ポリエステル布、紐、木材棒、滑車	115×200×200	個人蔵

収集

所蔵作品展は美術館の性格が反映される重要な活動のひとつであるが、その基礎となる収集活動については、旧美術館(愛知県文化会館美術館)から新美術館に引き継がれるにあたって、1987(昭和62)年までの旧美術館時代の収集活動の結果を踏まえつつ、1987年度に設けられた美術品収集計画研究会において、以下の4項目からなる新美術館としての収集方針がまとめられた。

収集方針

- (1)20世紀の優れた国内外の作品及び20世紀の美術動向を理解する上で役立つ作品
- (2)現在を刻印するにふさわしい作品
- (3)愛知県としての位置をふまえた特色あるコレクションを形成する作品
- (4)上記の作品・作家を理解する上で役立つ資料

この収集方針に沿って、1988年にあらたに設置された愛知県美術館美術品収集委員会において審議を経て収集した作品は、開館年度までの5年間に591点を数え、愛知県文化会館美術館時代に収集された1056点の作品および、藤井達吉コレクション1460点を加えて、総数3107点のコレクションとなった。1988年から開館までの約5年間この収集方針に基づいておこなった収集活動の内訳は下記の表のとおりである。

美術品等収集状況

1993.3.31現在

種 別	1988(昭63)年度		1989(平元)年度		1990(平2)年度		1991(平3)年度		1992(平4)年度		計	
	購入 寄贈		購入 寄贈		購入 寄贈		購入 寄贈		購入 寄贈		購入 寄贈	
	点数	点数	点数	点数	点数	点数	点数	点数	点数	点数	点数	点数
日本画	8	-	5	-	5	17	2	-	4	4	45	
											24	21
洋 画	19	2	28	3	8	-	11	-	9	3	83	
											75	8
立 体	12	1	18	1	4	-	10	-	5	-	51	
											49	2
版 画	8	-	180	-	29	-	44	-	11	-	272	
											272	-
素 描	113	-	18	-	1	3	1	-	2	-	138	
											135	3
資 料	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
											1	1
計	165		253		67		68		38		591	
	161	4	249	4	47	20	68	-	31	7	556	35

収集活動は開館後もよりよいコレクションを形成するために継続しており、開館年の1992年度は、3回の収集委員会を開催し、収集点数とその内訳は下記のとおりである。

なお、これらの作品は『愛知県美術館所蔵作品目録』(1993年3月発行)に収録されている。

■1992(平成4)年度収集作品一覧

種別	作者名	作品名	制作年	技法、材質	大きさ(タテ×ヨコ)cm
----	-----	-----	-----	-------	--------------

ア、購入作品(31点)

1.日本画	速水御舟	西郊小景	1923年	紙本着色	44.5×39.7
2.日本画	山元春挙	溪村暮靄図	1900年頃	絹本着画淡彩	137.0×63.0
3.日本画	小川芋銭	陶淵明桃花源詩意	1925年頃	絹本着色	126.0×41.7
4.日本画	吉岡堅二	鶴	1959年	合板に金箔・着色	152.0×121.8
5.洋画	杉本健吉	宇治川	1973年	油彩、麻布	53.0×72.8
6.洋画	村井正誠	ゴルフジュアンの船	1929年	油彩、麻布	100×80.3
7.洋画	村井正誠	Cité B	1940年	油彩、麻布	60.6×72.7
8.洋画	フランティシェク・クプカ	灰色と金色の展開	1919年	油彩、麻布	60×81
9.洋画	クルト・シュヴィッターズ	メルツ絵画52,美容	1920年	コラージュ、紙	15.5×10.8
10.洋画	クルト・シュヴィッターズ	メルツ絵画305	1921年	コラージュ、紙	17.8×14.0
11.洋画	パウル・クレー	回心した女の墮落	1939年	油彩・グワッシュ、紙	49.5×35.0
12.洋画	ニコラード・スタール	コンポジション	1948年	油彩、麻布	81.0×60.0
13.洋画	ベン・ニコルソン	1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ)	1933年	油彩・コラージュ、麻布	50.8×76.3
14.版画	北川民次	メキシコの浴み	1941年	木版、紙	26.0×29.0
15.版画	北川民次	タスコの裸婦	1941年	木版、紙	24.0×43.0
16.版画	関野準一郎	貝のある静物	1946年	木版他、紙	58.0×45.0
17.版画	藤牧義夫	銀行	1933年	木版、紙	11.5×9.8
18.版画	藤牧義夫	まくら橋	1934年	木版、紙	11.7×9.0

19.版画	棟方志功	華狩頌	
	1954年	木版、紙	132.0×158.0
20.版画	北川民次	家族	
	1937年頃	木版、紙	7.5×7.5
21.版画	北川民次	牛	
	1937年頃	木版、紙	8×11
22.版画	長岡国人	6人の日本人ノーベル賞受賞者を称える	
	1986-87年	エッチング・アクワチント、紙	49×38.5(×6)
23.版画	パウル・クレー	喜劇役者	
	1904年	エッチング、紙	15.3×16.8
24.版画	エミール・ノルデ	E.N.(自画像)	
	1908年	エッチング、アクワチント、紙	30.6×23.7
25.立体	柳原義達	黒人の女	
	1956年	ブロンズ	64×22.5×18
26.立体	加藤昭男	大地	
	1986年	ブロンズ	275×175×100
27.立体	小田 襄	円柱の構造	
	1988年	ステンレス	208×56×49
28.立体	戸谷成雄	森	
	1992年	木	220×30×30
29.立体	今井瑾郎	大地	
	1992年	鉄	直径700
30.素描	土田麦僊	蓮華(下図)	
	1930年	紙本 墨 着色	126.8×145.0
31.素描	ロバート・ラウシェンバーク	コース	
	1958年	インク その他、紙	60.4×90.2

イ、寄贈作品(7点)

1.日本画	平松礼二	峠四題・白い花	林植屋寄贈
	1992年	膠彩、紙	65.2×91.0
2.日本画	平松礼二	峠四題・家路	林植屋寄贈
	1992年	膠彩、紙	91.0×65.2
3.日本画	平松礼二	峠四題・雨	林植屋寄贈
	1992年	膠彩、紙	91.0×65.2
4.日本画	平松礼二	峠四題・花の季	林植屋寄贈
	1992年	膠彩、紙	65.2×91.0
5.洋画	福沢一郎	海	藤丸栄寄贈
	1942年	油彩、麻布	38.3×71.4
6.洋画	野間仁根	松原湖よりハッ岳をのぞむ	藤丸栄寄贈
	1940年	油彩、麻布	61.1×72.6
7.洋画	川島理一郎	フィリピン服の少女	藤丸栄寄贈
	1943年頃	油彩、麻布	65.2×53.3

所蔵作品展

愛知県美術館の展示室4から8では、開館の1992(平成4)年10月30日から12月20日まで第1期所蔵作品展として「20世紀美術の展開」と題し、また1993(平成5)年1月5日から3月28日まで第2期所蔵作品展として「現代美術の諸相」と題して、所蔵作品の中から中心となる作品を順次紹介した。

また、特に展示室6では所蔵作品展の区画内ではあるが、展示する作品を所蔵作品のみに限らず、テーマ展示として第1期には「山口勝弘＝メディア・サーカス」、第2期には「若林奮＝大気中の緑色に属するもの」を紹介した。

この展示室6については、他の展示室とはその仕様が異なっており、音や光などを使った作品をはじめ、天井から重量物を吊り下げたり、床が浮き床になっていてどこからでも電源を取ることができるなど現代美術作品の展示にも対応しやすいように設計されており、テーマ展示として柔軟な発想のもとに、現存作家などの紹介の場としてもその機能を十分に発揮させながら展示を行っている。

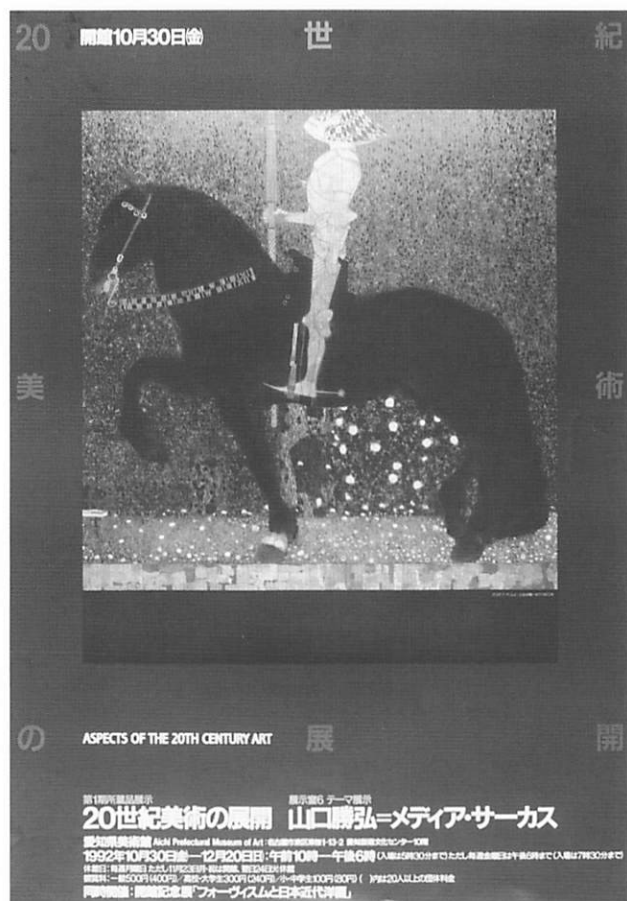
1992(平成4)年度の所蔵作品展実施状況

所蔵作品展名		会 期	日数	入場者数	1日平均
1992(平成4)年度第1期 「20世紀美術の展開」		1992(平成4)年10月30日～12月20日	45	42,876	952.8
展示室6・テーマ展示：山口勝弘＝メディア・サーカス					
内 訳	「フォーヴィズムと日本近代洋画」展共通入場者		45	41,343	918.7
	同期間中の所蔵作品展のみの入場者		〃	1,533	34.1
1992(平成4)年度第2期 「現代美術の諸相」		1993(平成5)年1月5日～3月28日	72	40,624	564.2
展示室6・テーマ展示：若林奮＝大気中の緑色に属するもの					
内 訳	「近代の日本画」展共通入場者(5.1.5～2.11)		33	26,166	792.9
	同期間中の所蔵作品展のみの入場者		〃	287	8.7
	所蔵作品展のみ開催期間中入場者(2.12～2.18)		6	1,049	174.8
	「20世紀 愛知の美術」展共通入場者(2.19～3.21)		27	11,585	429.1
	同期間中の所蔵作品展のみの入場者		〃	266	9.9
	所蔵作品展のみ開催期間中入場者(3.23～3.28)		6	1,271	211.8
1992(平成4)年度合計			117	83,500	713.7



所蔵作品展



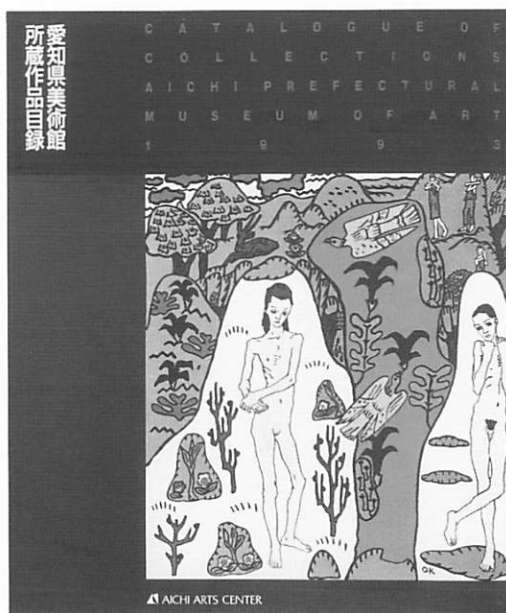
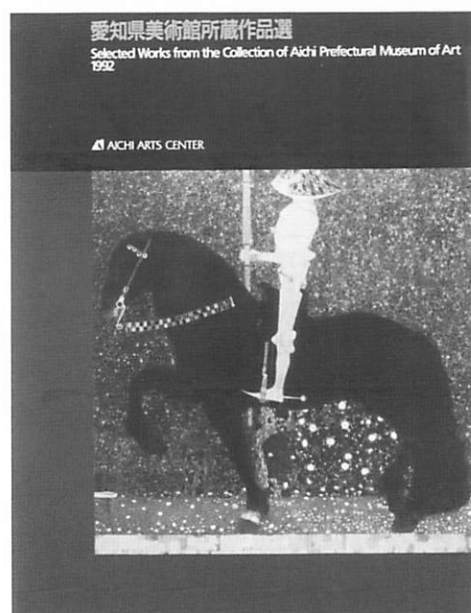


関連印刷物

《愛知県美術館所蔵作品選》 A4判変形(30×25センチ) 213ページ 1992.10発行

《愛知県美術館所蔵作品目録》 A4判変形(29×24.5センチ) 263ページ 1993.3発行

《愛知県美術館所蔵品展 平成4年度 第1期・第2期》 21.5×11.5センチ 29ページ 1992.10発行



■1992年度第1期前期展示作品リスト 前期1992.10.30～1992.11.29 後期12.1～12.20

種別	作家名	作品名	制作年	技法、材質	大きさ(タテ×ヨコ×奥ユキ)cm
----	-----	-----	-----	-------	------------------

展示室4

洋画	高橋由一	厨房具	1878年頃	油彩、麻布	42.5×60.7
洋画	黒田清輝	暖き日	1897年	油彩、麻布	50.2×61.0
洋画	山下新太郎	白耳義の少女	1909年	油彩、麻布	41×33
洋画	久米桂一郎	秋景	1892年	油彩、麻布	39.0×55.0
洋画	小出楯重	N夫人像	1918年	油彩、麻布	92.9×80.2
洋画	中村 彝	少女裸像	1914年	油彩、麻布	80.2×60.6
洋画	林 俊衛	サント・ヴィクトワール	1925年	油彩、麻布	72.5×99.0
洋画	大沢鉦一郎	ジンを着た少女	1920年	油彩、麻布	72.7×52.5
洋画	木村莊八	壺を持つ女	1915年	油彩、麻布	81.7×60.4
洋画	岸田劉生	高須光治君の肖像	1915年	油彩、麻布	45.5×38.0
洋画	河野通勢	自画像	1917年	油彩、麻布	73.0×51.0
洋画	伊藤 廉	肘をつく女	1929年	油彩、麻布	92.0×73.0
洋画	佐分 真	裸婦	1925年頃	油彩、麻布	80.3×60.6
洋画	前田寛治	褐衣婦人像	1925年	油彩、麻布	91.0×72.5
洋画	野口弥太郎	門	1932年	油彩、麻布	65.2×91.0
洋画	藤田嗣治	青衣の少女	1925年	油彩、麻布	55×38
洋画	海老原喜之助	雪山と樵	1930年	油彩、麻布	115.1×58.8
洋画	安井曾太郎	承德喇嘛廟	1938年	油彩、麻布	60.0×77.5
洋画	小林和作	薔薇咲くカブリ島	1928年	油彩、麻布	61.0×72.7
洋画	福沢一郎	海	1942年	油彩、麻布	38.3×71.4
洋画	古賀春江	夏山	1927年	油彩、麻布	90.9×116.7

洋画	神原 泰	生命の流動	1924年	油彩、麻布	60.8×49.7
洋画	清水登之	森に憩う人	1925年	油彩、麻布	90.9×116.7
洋画	北川民次	メキシコ三童女	1937年	油彩、麻布	65.2×80.3
洋画	須田国太郎	夏	1941年	油彩、麻布	90.9×116.7
洋画	岡 鹿之助	窓	1949年	油彩、麻布	72.0×90.0
洋画	矢橋六郎	女の肖像	1936年	油彩、麻布	99.5×80.4
洋画	宮本三郎	家族	1956年	油彩、麻布	106.4×106.4
洋画	林 武	ノートルダム	1960年	油彩、麻布	90.9×116.5
洋画	杉本健吉	宇治川	1973年	油彩、麻布	53.0×72.8
洋画	荻須高德	線路に面した家	1955年	油彩、麻布	145.5×97.0
洋画	鬼頭鍋三郎	マドモアゼルM	1954年	油彩、麻布	91.2×72.6
洋画	香月泰男	散歩	1953年	油彩、麻布	72.5×116.5
洋画	森 芳雄	女たち	1954年	油彩、麻布	162.0×130.0
洋画	山口 薫	ボタン雪と騎手	1953年	油彩、麻布	130.3×162.1
洋画	鳥海青児	うづくまる	1954年	油彩、麻布	69.0×61.0
洋画	麻生三郎	胴体と頭と電球	1964年	油彩、麻布	162.0×130.3

展示室5

洋画	エミール・ノルデ	静物I (アマゾン、能面等)	1915年	油彩、麻布	74×88
洋画	フランティšek・クプカ	灰色と金色の展開	1919年	油彩、麻布	60×81
洋画	ジャック・ヴィヨン	存在	1920年	油彩、麻布	92×65
洋画	ライオネル・ファイニンガー	夕暮れの海 I	1927年	油彩、麻布	42.5×85
洋画	ベン・ニコルソン	1933 (スペインの絵葉書のあるコラージュ)	1933年	油彩・コラージュ、麻布	50.8×76.3
洋画	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物	1912年	油彩、麻布	100.5×74.5

洋画	ビエール・ボナール	子供と猫
	1906年頃	油彩、麻布 62.5×45.5
洋画	グスタフ・クリムト	人生は戦いなり(黄金の騎士)
	1903年	油彩、麻布 100×100
洋画	アンリ・マティス	待つ
	1921-2年	油彩、麻布 61×50
洋画	パブロ・ピカソ	青い肩かけの女
	1902年	油彩、麻布 60.3×52.4
立体	オシップ・ザツキン	チェロのトルソ
	1956-58年	ブロンズ 118×29×16
洋画	パウル・クレー	回心した女の墮落
	1939年	油彩・グアッシュ、麻布 49.5×35
洋画	ポール・デルヴォー	こだま
	1943年	油彩、麻布 105×128
洋画	マックス・エルンスト	ポーランドの騎士
	1954年	油彩、麻布 116×89
洋画	ジャン・デュビュッフェ	二人の脱走兵
	1953年	油彩、麻布 81.0×100.0
洋画	ラウル・デュフィ	サンクトレスの浜辺
	1906年	油彩、麻布 65×81
洋画	ルーチョ・フォンターナ	空間の概念
	1960年	水性絵具、麻布 100.0×80.0
立体	イヴ・クライン	肖像レリーフ アルマン
	1962年	ブロンズ・ボード 178.0×94×33
洋画	ニコラード・スタール	コンポジション
	1948年	油彩、麻布 81.0×60.0
洋画	尾藤 豊	拠点の崩壊
	1959-60年	油彩、麻布 115.3×194.0
洋画	小山田二郎	愛
	1956年	油彩、麻布 130.3×193.9
洋画	中村 宏	内乱期
	1958年	油彩、麻布 92.0×184.0
洋画	村井正誠	天使
	1950年	油彩、麻布 116.9×90.7
洋画	オノサト・トシノブ	三つの黒
	1958年	油彩、麻布 162.0×132.0
洋画	難波田龍起	萌
	1961年	油彩、麻布 100.0×72.7
洋画	瑛 九	黄色い花
	1957-8年	油彩、板 92.4×91.0
洋画	ジョーゼフ・アルバース	正方形頌
	1962年	油彩、メソナイト 75×75
洋画	山田正亮	Work No.B 182
	1958年	油彩、麻布 91.0×117.0
洋画	荒川修作	作品
	1963年	油彩、麻布 127.0×127.0
立体	アレクサンダー・コールダー	片膝ついて
	1944年	ブロンズ 113×127×51

洋画	元永定正	作品
	1961年	油彩、麻布 184.0×138.0
洋画	堂本尚郎	絵画1962-25
	1962年	油彩、麻布 330.0×220.0
洋画	今井俊満	東方の光
	1960年	油彩、麻布 130.0×195.0
洋画	斎藤義重	作品
	1962年	油彩、合板 181.8×121.4
洋画	山口長男	扉形
	1963年	油彩、ベニヤ板 182×360
洋画	宇佐美圭司	ビッグ・バン
	1987年	油彩、麻布 218.2×290.9
洋画	杉全 直	窪んだ空間B
	1958年	油彩、麻布 181.8×227.3
洋画	三尾公三	鏡の前
	1982年	アクリル、合板 180.0×240.0
洋画	アンディ・ウォーホル	レディースアンドジェントルメン
	1975年	アクリル、シルクスクリーン、麻布 124.5×100.3
洋画	上田 薫	なま玉子G
	1976年	アクリル、麻布 227.0×181.0
洋画	桑山忠明	茶白青
	1968年	アクリル、綿布、クロムストリップ 304.2×101.6
洋画	フランク・ステラ	River of Ponds IV
	1969年	アクリル、麻布 308.0×308
立体	戸谷成雄	地霊
	1990年	木、鉄、ガラス 434×434×32
洋画	加納光於	繁み・運動・エレメントB
	1988年	油彩、麻布 227.3×181.8
洋画	中西夏之	紫むらさきXIX
	1983年	油彩、麻布 227.0×162.5
洋画	浅野弥衛	作品
	1979年	油彩、麻布 97.0×145.0
洋画	アントニ・タビエス	Composition
	1977年	混合技法、パネル 130.0×162.0
洋画	猪熊弦一郎	マンハッタンA
	1966年	油彩、麻布 204.3×153.2
立体	久野 真	銅鉄による作品
	1982年	ステンレススティール、木 160×135(×2)
立体	ルイズ・ニーヴェルス	漂う天界
	1959-66年	木 290×232×25
立体	北山善夫	言葉が輝く時
	1987年	木、紙、竹、革 91×56.5×27
洋画	百瀬 寿	Square-NE XIV:Twelve Stripes E
	1987年	アクリル・和紙、麻布 214.0×214.0

展示室6・テーマ展示山口勝弘「メディア・サーカス」

立体	山口勝弘	レイジー・アニマル
	1992年	ビデオ・インスタレーション

立体	山口勝弘	港
	1967年	ライト・アート
立体	山口勝弘	回転木馬
	1992年	ビデオ・インスタレーション
立体	山口勝弘	空中サーカス
	1992年	ビデオ・インスタレーション
立体	山口勝弘	アシカ
	1992年	ビデオ・インスタレーション

展示室7(前期)

日本画	田淵俊夫	すぎばやし
	1989年	紙本着色 165.0×338.0(四曲一隻)
日本画	小林古径	洗濯場 その1
	1926年	絹本着色 59.0×73.0
日本画	小林古径	洗濯場 その2
	1926年	絹本着色 59.0×73.0
日本画	小茂田青樹	海岸風景
	1921年	紙本着色 74×112
日本画	平松礼二	峠四題・花の季
	1992年	紙本着色 65.2×91.0
日本画	東山魁夷	雪の山郷
	1991年	紙本着色 130.0×94.0
日本画	橋本雅邦	秋景山水
	1885年頃	紙本墨画淡彩 61.6×126.0
日本画	山元春挙	溪村暮靄図
	明治30年代	絹本墨画 淡彩 137.0×63.0
日本画	横山大観	飛泉
	1900年頃	絹本着色 110.1×49.1
日本画	伊東深水	島の黎明
	1916年	絹本着色 156.0×76.6
日本画	速水御舟	西郊小景
	1923年	紙本着色 44.5×39.7
日本画	村上華岳	魔障之図
	1923年	紙本墨画 85.9×42.7
日本画	竹内栖鳳	狐狸図
	1908年頃	絹本墨画 淡彩 各166.5×373(六曲一双)
日本画	平山郁夫	楼欄の遺跡・昼
	1990年	紙本着色 172.0×364.0
日本画	安田靫彦	月の兎
	1934年	紙本墨画淡彩 53.3×1500

展示室7(後期)

日本画	藤井達吉	扇面流し
	1954年	紙本着色 各168.0×360.0(六曲一双)
日本画	東山魁夷	雪の山郷
	1991年	紙本着色 130.0×94.0
日本画	上村松篁	玄鶴
	1968年	絹本着色 197.0×91.0(×2)

素描	土田麦僊	蓮華
	1930年	紙本着色 126.8×145.0
日本画	中村岳陵	芦に白鷺鵲鶴図
	1921年頃	紙本着色 136.0×263.0
日本画	小杉放菴	花鳥屏風
	1946-55年頃	紙本墨画淡彩 各175.0×376.0(六曲一双)
日本画	村上華岳	梅溪山道
	19 年	紙本着色 42.7
日本画	小川芋銭	陶淵明桃花源詩意
	1925年頃	絹本着色 126.0×41.7
日本画	前田青邨	稚児文殊
	明治30年代	絹本墨画 淡彩 137.0×63.0
日本画	前田青邨	江島詣
	1917年	絹本着色 125.0×43.0
版画	棟方志功	華狩頌
	1954年	木版、紙 132.0×158.0
日本画	小林古径	洗濯場 その1
	1926年	絹本着色 59.0×73.0
日本画	小林古径	洗濯場 その2
	1926年	絹本着色 59.0×73.0
日本画	小茂田青樹	柿
	1919年頃	絹本着色 28.6×20.4
日本画	安田靫彦	月の兎
	1934年	紙本墨画淡彩 53.3×1500

展示室8(前期)

版画	ジェームス・アンソール	悪魔の戦い
	1888年	エッチング、紙 26.1×30.3
版画	ジェームス・アンソール	キリストのブリュッセル入城
	1898年	ドラインポイント・エッチング、紙 24.8×35.6
版画	ライオネル・ファイニンガー	緑色の橋
	1910-11年	エッチング、紙 27.0×19.9
版画	パウル・クレイ	喜劇役者(インヴェンション4)
	1904年	エッチング・アクアチント、紙 15.2×16.8
版画	ヴィルヘルム・レームブルック	母と子(幻影II)
	1913年	ドライポイント・水彩、紙 23.8×18.0
版画	オスカー・ココシュカ	夢見る少年たち
	1908年	リトグラフ、紙 35.6×24.7
版画	ケーテ・コルヴィッツ	品を耕す者
	1906年	エッチング・アクアチント、紙 31.5×45.3
版画	ケーテ・コルヴィッツ	青い服の女工
	1903年	リトグラフ、紙 35.6×24.7
版画	ケーテ・コルヴィッツ	死の膝に抱かれる女
	1921年	木版、紙 23.8×28.8
版画	エミール・ノルデ	E.N.(自画像)
	1908年	エッチング・アクアチント、紙 30.6×23.7
版画	エミール・ノルデ	おしゃべり
	1917年	木版、紙 24.0×31.4

版画	エミール・ノルデ	騎士	1906年 木版、紙 28.9×22.7
版画	エーリッヒ・ヘッケル	疲れ	1913年 木版、紙 45.9×33.7
版画	エーリッヒ・ヘッケル	第1回現代ドイツ美術展ポスター	1920年 木版、紙 63.6×45.2
版画	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー	三本の道	1917年 木版、紙 50.0×33.7
版画	マックス・ベックマン	自画像	1919年 ドライポイント、紙 44.0×35.5
版画	マックス・ベックマン	カフェミュージック	1918年 ドライポイント、紙 39.1×30.3
版画	マックス・ベックマン	あくびをする人達	1918年 ドライポイント、紙 37.9×31.5
版画	マックス・ベックマン	新年おめでとう	1917年 ドライポイント、紙 32.7×36.7
版画	ライオネル・ファイニンガー	ダースドルフ	1918年 木版、紙 33.1×44.9
版画	ライオネル・ファイニンガー	無題(バウハウスマイスターマップ)	1923年 木版、紙 33.0×24.8
版画	パウル・クレー	恋人(バウハウスマイスターマップ)	1923年 リトグラフ、紙 27.6×19.1
版画	オスカー・シュレンマー	脚を組んだ抽象的人体像(バウハウスマイスターマップ)	1923年 リトグラフ、紙 31.6×23.9
版画	ヴァシリー・カンディンスキー	たのしき飛翔(バウハウスマイスターマップ)	1923年 リトグラフ、紙 23.8×19.4
版画	ラーズロー・モホリ=ナジ	無題(バウハウスマイスターマップ)	1923年 リトグラフ、紙 35.2×25.0
版画	ラーズロー・モホリ=ナジ	コンストラクション	1922-23年 リトグラフ、紙 60.5×44.5
版画	ラーズロー・モホリ=ナジ	コンストラクション	1922-23年 リトグラフ、紙 59.7×43.6
版画	ラーズロー・モホリ=ナジ	コンストラクション	1922-23年 リトグラフ、紙 60.5×44.5
立体	エルンスト・バルラッハ	母なる大地II	1920年 ブロンズ h.73.0

展示室8(後期)

版画	ジャック・ヴィヨン	食卓	1913年 ドライポイント、紙 28.5×38.5
版画	ジャック・ヴィヨン	横顔のイヴォンヌ	1913年 ドライポイント、紙 55.0×41.5
版画	ジャック・ヴィヨン	機械のある工場	1914年 エッチング、紙 16.0×19.7
版画	カシ米尔・マレーヴィチ	祈り	1913年 リトグラフ、紙 13.5×10.5
版画	カシ米尔・マレーヴィチ	飛行機と汽車に乗った男の同時の死	1913年 リトグラフ、紙 9.1×14.0

版画	カシ米尔・マレーヴィチ	建設者の完全な肖像	1913年 リトグラフ、紙 14.9×10.5
素描	ロベール・ドローネー	「カーティフチーム」習作	1913-22年頃 色鉛筆、紙 28.0×23.5
素描	フランシス・ピカビア	糸巻き	1921-22年 水彩、紙 76.4×56.9
洋画	クルト・シュヴィッターズ	メルツ絵画52、美容	1920年 コラージュ、紙 15.5×10.8
洋画	クルト・シュヴィッターズ	メルツ絵画305、ロボジツ	1921年 コラージュ、紙 18.0×14.0
版画	ハンス(ジャン)・アルプ	7つのアルプ集	1923年 リトグラフ、紙 46.0×36.0(×7)
版画	ジョルジュ・ブラック	裸婦習作	1907-08年 エッチング、紙 27.5×19.7
版画	パブロ・ピカソ	静物 果物皿	1909年 ドライポイント、紙 13.0×11.0
版画	ジョルジュ・ブラック	小さなキュビスムのギター	1909-10年 エッチング、紙 13.0×19.4
版画	パブロ・ピカソ	レオニー嬢(聖マトレル)	1910年 エッチング、紙 20.0×14.1
版画	パブロ・ピカソ	テーブル(聖マトレル)	1910年 エッチング、紙 20.0×14.2
版画	パブロ・ピカソ	長椅子のレオニー嬢(聖マトレル)	1910年 エッチング、紙 19.8×14.2
版画	パブロ・ピカソ	修道院(聖マトレル)	1910年 エッチング、紙 20.0×14.1
版画	ジョルジュ・ブラック	PAL	1911年 エッチング、紙 14.5×20.0
版画	ジョルジュ・ブラック	コンポジション(静物I)	1912年 エッチング、紙 35.0×21.5
版画	ジョルジュ・ブラック	FOX	1911年 ドライポイント、紙 54.8×38.0
版画	ジョルジュ・ブラック	BASS	1911年 ドライポイント・エッチング、紙 46.5×33.0
版画	ジョルジュ・ブラック	JOB	1911年 ドライポイント、紙 14.5×20.0
版画	ジョルジュ・ブラック	コンポジション(グラスのある静物)	1912年 エッチング、紙 34.6×20.8
版画	パブロ・ピカソ	男の顔	1912年 エッチング、紙 13.0×11.0
版画	パブロ・ピカソ	男と犬	1914年 エッチング、紙 27.8×21.8
版画	パブロ・ピカソ	ギターを持つ男	1915年 エングレーヴィング、紙 15.3×22.3
立体	工藤哲巳	果てしなく緩糸がまとわるマルセル・デュシャン	1977年 混合技法 鳥かご、樹脂、糸 32×46×21

展示前室2

立体	エルンスト・バルラッハ	忘我	1911-12年	ブロンズ	46.0×31.3×15.0
立体	柳原義達	黒人の女	1956年	ブロンズ	64×22.5×18
立体	ジャコモ・マンズー	踊りのステップ	1953年	ブロンズ	h.165

その他

立体	ヴィルヘルム・レームブルック	立ち上がる青年	1913年	ブロンズ	226.0×76.0×56.0
立体	アルナルド・ボモドーロ	飛躍の瞬間	1984年	ブロンズ	150.0×180.0×210.0
立体	コルネリウス・ジットマン	カリブの女	1983年	ブロンズ	189.0×90.0×90.0
立体	加藤昭男	大地	1986年	ブロンズ	275.0×175.0×100.0

立体	柳原義達	風の中の鴉	1982年	ブロンズ	58.0×98.5×47.0
立体	小田 襄	円柱の構造	1988年	ステンレススティール	208.0×56.0×49.0
立体	今井瑾郎	大地	1992年	鉄	直径700.0
立体	エミール=アントワヌ・ブールデル	ベネロープ	1909年	ブロンズ	118.0×43.0×36.5
立体	エミール=アントワヌ・ブールデル	力	1914-15年	ブロンズ	121.5×35.5×35.6
立体	エミール=アントワヌ・ブールデル	勝利	1914-15年	ブロンズ	120.5×37.2×34.0
立体	エミール=アントワヌ・ブールデル	雄弁	1914-15年	ブロンズ	120.1×36.5×36.8
立体	エミール=アントワヌ・ブールデル	自由	1914-15年	ブロンズ	121.5×32.7×45.5

■1992年度第2期 展示作品リスト 前期1993.1.5～2.14 後期1993.2.16.～3.28

展示室4

洋画	黒田清輝	花と猫	1906年	油彩、麻布	60.6×45.1
洋画	黒田清輝	暖き日	1897年	油彩、麻布	50.2×61.0
洋画	山下新太郎	白耳義の少女	1909年	油彩、麻布	41×33
洋画	久米桂一郎	秋景	1892年	油彩、麻布	39.0×55.0
洋画	小出楢重	N夫人像	1918年	油彩、麻布	92.9×80.2
洋画	中村 皐	少女裸像	1914年	油彩、麻布	80.2×60.6
洋画	林 俊衛	サント・ヴィクトワール	1925年	油彩、麻布	72.5×99.0
洋画	岸田劉生	斎藤与里氏像	1913年	油彩、麻布	53.0×41.0
洋画	岸田劉生	高須光治君之肖像	1915年	油彩、麻布	45.5×38.0
洋画	木村莊八	壺を持つ女	1915年	油彩、麻布	81.7×60.4
洋画	河野通勢	自画像	1917年	油彩、麻布	73.0×51.0
洋画	藤田嗣治	青衣の少女	1925年	油彩、麻布	55×38
洋画	佐分 真	ア・パッシェ・シャルボニエ	1931年頃	油彩、麻布	162.1×112.1

洋画	野口弥太郎	門	1932年	油彩、麻布	65.2×91.0
洋画	小林和作	薔薇咲くカプリ島	1928年	油彩、麻布	61.0×72.7
洋画	前田寛治	母の像	1928年頃	油彩、麻布	162.5×97.0
洋画	古賀春江	夏山	1927年	油彩、麻布	90.9×116.7
洋画	小島善太郎	房州風景	1930年	油彩、麻布	65.0×91.0
洋画	海老原喜之助	ゲレンデ	1930年	油彩、麻布	72.8×100.4
洋画	安井曾太郎	承德喇嘛廟	1938年	油彩、麻布	60.0×77.5
洋画	国吉康雄	荒天	1936年	油彩、麻布	38.6×55.9
洋画	清水登之	森に憩う人	1925年	油彩、麻布	90.9×116.7
洋画	北川民次	メキシコ三童女	1937年	油彩、麻布	65.2×80.3
洋画	矢橋六郎	武蔵野・冬・杉林	1941年	油彩、麻布	90.0×146.0
洋画	山口 薫	ボタン雪と騎手	1953年	油彩、麻布	130.3×162.1
洋画	須田国太郎	樹下	1954年	油彩、麻布	73.0×91.0
洋画	岡 鹿之助	窓	1949年	油彩、麻布	72.0×90.0

洋画	香月泰男 散歩 1953年 油彩、麻布 72.5×116.5
洋画	森 芳雄 アクロポリス 1963年 油彩、麻布 100.0×81.0
洋画	麻生三郎 胴体と頭と電球 1964年 油彩、麻布 162.0×130.3

(前期)

洋画	中谷 泰 石山 1961年 油彩、麻布 84.5×150.8
洋画	児島善三郎 伊豆の海 1951年 油彩、麻布 80.5×99.9
洋画	金山康喜 静物 1956年 油彩、麻布 64.7×91.7

(後期)

洋画	小川博史 北風 1982年 油彩、麻布 194.2×130.2
洋画	上原欽二 芦さわぐ湖 1987年 油彩、麻布 112.0×145.0
洋画	安藤幹衛 救助 1966年 油彩、麻布 162.2×130.5

展示室5

洋画	エミール・ノルデ 静物L(アマゾン、能面等) 1915年 油彩、麻布 74×88
洋画	フランティšek・クプカ 灰色と金色の展開 1919年 油彩、麻布 60×81
洋画	ジャック・ヴィヨン 存在 1920年 油彩、麻布 92×65
洋画	ライオネル・ファイニンガー 夕暮れの海 I 1927年 油彩、麻布 42.5×85
洋画	ベン・ニコルソン 1933(スペインの絵葉書のあるコラージュ) 1933年 油彩・コラージュ、麻布 50.8×76.3
洋画	エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー グラスのある静物 1912年 油彩、麻布 100.5×74.5
洋画	ビエール・ボナール 子供と猫 1906年頃 油彩、麻布 62.5×45.5
洋画	グスタフ・クリムト 人生は戦いなり(黄金の騎士) 1903年 油彩、麻布 100×100
洋画	パブロ・ピカソ 青い肩かけの女 1902年 油彩、麻布 60.3×52.4
洋画	アンリ・マティス 待つ 1921-2年 油彩、麻布 61×50
立体	オシップ・ザツキン チェロのトルソ 1956-58年 ブロンズ 118×29×16
洋画	パウル・クレー 回心した女の墮落 1939年 油彩・グアッシュ、麻布 49.5×35

洋画	ボール・デルヴォー こだま 1943年 油彩、麻布 105×128
洋画	マックス・エルンスト ポーランドの騎士 1954年 油彩、麻布 116×89
洋画	ジャン・デュビュッフエ 二人の脱走兵 1953年 油彩、麻布 81.0×100.0
洋画	ルーチョ・フォンターナ 空間の概念 1960年 水性絵具、麻布 100.0×80.0
立体	イヴ・クライン 肖像レリーフ アルマン 1962年 ブロンズ・ボード 178.0×94×33
洋画	ニコラ=ド・スタール コンポジション 1948年 油彩、麻布 81.0×60.0
洋画	小山田二郎 こわす者 1955年 油彩、麻布 116.7×90.9
洋画	小山田二郎 愛 1956年 油彩、麻布 130.3×193.9
洋画	尾藤 豊 モスクワの地下鉄 1957年 油彩、麻布 97.0×145.52
洋画	村井正誠 天使 1950年 油彩、麻布 116.9×90.7
洋画	瑛 九 白い輪 1954年 油彩、麻布 116.7×90.9
洋画	瑛 九 黄色い花 1957-8年 油彩、板 92.4×91.0
洋画	オノサト・トシノブ 三つの黒 1958年 油彩、麻布 162.0×132.0
洋画	田中稔之 円の光景(砂漠の陽) 1981年 油彩、麻布 197.1×291.3
立体	アレクサンダー・コールドー 片膝ついて 1944年 ブロンズ 113×127×51
洋画	杉全 直 窪んだ空間B 1958年 油彩、麻布 181.8×227.3
洋画	元永定正 作品 1961年 油彩、麻布 184.0×138.0
洋画	白髪一雄 作品 1963年 油彩、麻布 131.0×193.5
洋画	斎藤義重 作品 1962年 油彩、合板 181.8×121.4
洋画	堂本尚郎 絵画1962-25 1962年 油彩、麻布 330.0×220.0
洋画	アンディ・ウォーホル レディース・アンド・ジェントルメン 1975年 アクリル、シルクスクリーン、麻布 124.5×100.3
洋画	三尾公三 FICTION SPACE(X) 1974年 アクリル、合板 140.0×213.0
洋画	猪熊弦一郎 地図の中の日曜日 1966年 油彩、麻布 204.3×153.2
洋画	宇佐美圭司 長い歩み 1964年 油彩、麻布 175.0×223.0

洋画	菅井 汲	ナショナル・ルートNo.11	1964年	油彩、麻布	200.0×161.0
洋画	フランク・ステラ	River of Ponds IV	1969年	アクリル、麻布	308.0×308
洋画	中西夏之	紫むらさきXIX	1983年	油彩、麻布	227.0×162.5
洋画	加納光於	繁み・運動・エレメントB	1988年	油彩、麻布	227.3×181.8
立体	土谷 武	植物空間	1990年	木・鉄	253.0×150.0×160.0
版画	サム・フランシス	春	1984-88年	エッチング・アクアチント、紙	100.0×200.0
洋画	アントニ・タビエス	Composition	1977年	混合技法、パネル	130.0×162.0
素描	クリスト・ヤバチェフ	旧ドイツ帝国国会議事堂の梱包	1986年	鉛筆・木炭・クレヨン・パステル、紙	38/107.0×244.0
立体	ルイズ・ニーヴェルスン	漂う天界	1959-66年	木	290×232×25
立体	北山善夫	はなはだ大きいと言うべきである	1984年	木、竹、紙、革、ゴム	290.0×220.0×134.0

展示室6・テーマ展示 若林奮 「大気中の緑色に属するもの」

立体	若林 奮	大気中の緑色に属するもの I	1982年	鉛、木	400.0×474.0
素描	若林 奮	大気中の緑色に属するものの制作ノート	1981-82年	グアッシュ、紙	76.5×53.0(×11)

展示前室2

立体	工藤哲巳	果てしなく綾糸がまとわるマルセル・デュシャン	1977年	混合技法 鳥かご、樹脂、糸	32×46×21
立体	エルンスト・バルラッハ	忘我	1911-12年	ブロンズ	46.0×31.3×15.0
立体	柳原義達	黒人の女	1956年	ブロンズ	64×22.5×18
立体	ジャーコモ・マンズー	踊りのステップ	1953年	ブロンズ	h.165

展示室7(前期)

日本画	中村正義	爽爽	1966年	紙本着色	182.0×362.0
日本画	田淵俊夫	青木ヶ原	1969年	紙本着色	162.0×228.0
日本画	工藤甲人	坐忘	1982年	紙本着色	150.0×210.0
日本画	下保 昭	赤の季	1978年	紙本着色	100.0×72.7
日本画	中川とも	歎異抄	1968年	紙本着色	90.0×121.0

日本画	片岡球子	面構(国貞・柳亭)	1980年	紙本着色	182.0×341.0
日本画	吉岡堅二	鶴	1959年	合板に金箔・着色	152.0×121.8
日本画	星野真吾	喪中の作品(昇天)	1965年	紙本着色	183.0×90.9
日本画	小嶋悠司	穢土	1985年	紙本着色	116.5×233.0
日本画	加山又造	黒い鳥	1957年	絹本着色	212.5×151.5
日本画	三上 誠	機構の生理 窓51	1970年	紙本着色	136.0×120.9
日本画	下村良之介	鼓舞	1964年	顔料、紙粘土、紙	182.0×372.0

展示室7(後期)

日本画	今野忠一	妙義	1977年	紙本着色	181.5×251.5
日本画	吉岡堅二	鶴	1959年	合板に金箔・着色	152.0×121.8
日本画	加山又造	黒い鳥	1957年	絹本着色	212.5×151.5
日本画	守屋多々志	聴聞(北条政子)	1980年	紙本着色	131.0×75.7
日本画	平山郁夫	楼蘭の遺跡・昼	1990年	紙本着色	172.0×364.0
日本画	山本丘人	幻雪	1978年	紙本着色	130.0×273.0
日本画	麻田鷹司	鬼界ヶ島	1982年	紙本着色	170.5×181.6
日本画	吉田善彦	雨余桂林	1982年	紙本着色	182.0×364.5
日本画	稗田一穂	孔雀と女	1982年	紙本着色	160.5×211.7

展示室8(前期)

版画	池田満寿夫	タエコの朝食	1963年	エッチング・ドライポイント、紙	36.2×34.7
版画	中林忠良	因われる風景 1	1973年	エッチング・アクアチント・メゾチント、紙	43.3×56.5
版画	中林忠良	Position'80 腐蝕 1	1980年	エッチング・アクアチント、紙	44.8×65.4
版画	中林忠良	転位'84地一 1	1984年	エッチング・アクアチント、紙	62.0×102.0
版画	野田哲也	日記1987年5月3日柏台	1987年	シルクスクリーン・木版、紙	59.5×119.0
版画	大沢昌助	そうぐう	1989年	リトグラフ、紙	59.5×82.5(×8)

版画	荒川修作	それはその中に	1978年	シルクスクリーン・リトグラフ、紙	79.0×149.5
版画	加納光於	稲妻捕り	1977年	リトグラフ、紙	62.0×50.0(×4)
版画	黒崎 彰	シークレット・コード6	1973年	木版、紙	52.4×37.7
版画	吉原英雄	シーソー	1968年	リトグラフ・エッチング、紙	100.0×100.0
版画	爰 嘯	レインボー・ナイト2	1971年	シルクスクリーン、紙	54.1×73.3
版画	長岡国人	6人の日本人ノーベル賞受賞者を称える	1986-87年	エッチング、紙	49.0×38.5(×4)

展示室B(後期)

日本画	加藤東一	伝承	1982年	絹本着色	166.1×210.2
日本画	西内利夫	白鷺	1977年	紙本着色	90.9×162.2
日本画	東山魁夷	雪の山郷	1991年	紙本着色	130.0×94.0
日本画	田淵俊夫	青木ヶ原	1969年	紙本着色	162.0×228.0
日本画	竹内浩一	風	1981年	紙本着色	154.6×140.0
日本画	小山 硬	日本海	1982年	紙本着色	100.0×106.5
日本画	広田多津	葵上	1969年	紙本着色	164.5×114.3
日本画	北沢映月	朧(惣の阿国)	1982年	紙本着色	137.5×92.1
日本画	大森運夫	雪消ゆる頃	1978年	紙本着色	225.0×135.0
日本画	池田遙邨	稲掛け	1981年	紙本着色	162.1×112.1

その他

立体	ヴィルヘルム・レームブルック	立ち上がる青年	1913年	ブロンズ	226.0×76.0×56.0
立体	アルナルド・ボモドーロ	飛躍の瞬間	1984年	ブロンズ	150.0×180.0×210.0
立体	コルネリウス・ジットマン	カリブの女	1983年	ブロンズ	189.0×90.0×90.0
立体	加藤昭男	大地	1986年	ブロンズ	275.0×175.0×100.0
立体	柳原義達	風の中の鴉	1982年	ブロンズ	58.0×98.5×47.0
立体	小田 襄	円柱の構造	1988年	ステンレススチール	208.0×56.0×49.0

立体	今井瑾郎	大地	1992年	鉄	直径700.0
立体	エミール=アントワーンヌ・ブールデル	ペネロープ	1909年	ブロンズ	118.0×43.0×36.5
立体	エミール=アントワーンヌ・ブールデル	力	1914-15年	ブロンズ	121.5×35.5×35.6
立体	エミール=アントワーンヌ・ブールデル	勝利	1914-15年	ブロンズ	120.5×37.2×34.0
立体	エミール=アントワーンヌ・ブールデル	雄弁	1914-15年	ブロンズ	120.1×36.5×36.8
立体	エミール=アントワーンヌ・ブールデル	自由	1914-15年	ブロンズ	121.5×32.7×45.5

貸出

貸出作品一覧

No.	作家名	作品名	貸出先	会場	貸出期間	展覧会名
1.	守屋多々志	大原寂光	日本美術院・共同通信社・中国新聞社	広島市福屋・徳島そごう	1992.12.12~1993.2.15	院展 95年の流れ展
2.	斎藤義重	ゼロイスト	横浜美術館・日本美術院・朝日新聞社	横浜美術館	1992.12.18~4.5	斎藤義重による斎藤義重展
3.	エルンスト・ ルートヴィヒ・キルヒナー	グラスのある静物	東京国立近代美術館・京都国立近代美術館・福井新聞社・ 関西テレビ放送事業局・東京新聞文化事業部	京都国立近代美術館・東京国立近代美術館	1992.12.22~2.14	フォーヴィスムと日本近代洋画
	ラウル・デュヴィ	サンタドレスの浜辺	"	"	"	"
	長谷川利行	酒売場	"	"	"	"
	梅原龍三郎	若き羅馬人	"	"	"	"
	里見勝茂	裸婦	"	"	"	"
4.	鬼頭鍋三郎	養老孝子	メナード美術館	メナード美術館	1992.12.25~1993.2.28	新春展 ~うたう舞う~
	片岡球子	乙女	"	"	"	"
	平川敏夫	松の緑	"	"	"	"
	森 緑翠	若竹	"	"	"	"
	小山 硬	富士	"	"	"	"
	田淵俊夫	くず花	"	"	"	"
5.	奥谷 博	貝と河豚	日動美術財団 奥谷博展実行委員会	刈谷市美術館 笠間日動美術館 山形県立美術館 平塚市美術館 三重県立美術館	1992.12.19~1993.8.4	奥谷博展
6.	藤井達吉	桜図	西加茂郡小原村	和紙のふるさと和紙展示館	1993.1.20~4.30	愛知県美術館所蔵 藤井達吉展
	"	舞鶴草	"	"	"	"
	"	墨絵松	"	"	"	"
	"	柳	"	"	"	"
	"	戦場ヶ原	"	"	"	"
	"	朝映	"	"	"	"
	"	雨のおと	"	"	"	"
	"	かいとる舟人	"	"	"	"
	"	吹雪	"	"	"	"
	"	冬の池	"	"	"	"
	"	すみえの山	"	"	"	"
	"	草花	"	"	"	"
	"	やまかげ	"	"	"	"
	"	竹	"	"	"	"
	"	竹のおと	"	"	"	"
	"	梅	"	"	"	"
	"	日の出	"	"	"	"
	"	供養絵巻	"	"	"	"
	"	知立のかきつばた	"	"	"	"
	"	風景文銘々皿	"	"	"	"
	"	刷毛山草文絵変大寸皿	"	"	"	"

7. 満谷国四郎	裸婦	岡山県立美術館	岡山県立美術館	1993.1.22～3.3	満谷国四郎展
8. 井戸三郎	田舎の教会と民家(フランス)	財団法人豊田文化協会	豊田市文化会館	1993.2.22～3.1	平成2年度豊田芸術選奨受賞記念井戸三郎展
9. 中根 寛	黎明	岡崎市美術館	岡崎市美術館	1993.2.23～3.24	中根寛白選展
10. 小川芋銭	桃花源詩意	東京国立近代美術館・日本経済新聞社	東京国立近代美術館	1993.3.20～7.20	小川芋銭展
11. 佐藤太清	旅の夕暮	福知山市	福知山美術館	1993.3.22～4.30	文化勲章受章記念佐藤太清展
12. 小茂田青樹	柿	東武美術館・日本経済新聞社	東武美術館	1993.3.24～5.15	小茂田青樹展
〃	漁村早春	〃 〃	〃	〃	〃
13. 平山郁夫	楼蘭の遺跡・昼	茨城県近代美術館・富山県立近代美術館・朝日新聞社文化企画局		茨城県立近代美術館・富山県立近代美術館	1993.3.30～7.3 平山郁夫展

保存

修復作品一覧

NO	作家 名	作品名	種別	状態	修復内容	修復者
1	恩地孝四郎 他	月映 I	版画	形状冊子・紙の酸化 平面性の欠如	解体・画面洗浄 マット装	岩井絵画修復
2	恩地孝四郎 他	月映 II	版画	形状冊子・紙の酸化 平面性の欠如	解体・画面洗浄 マット装	岩井絵画修復
3	恩地孝四郎 他	月映 VII	版画	形状冊子・紙の酸化 平面性の欠如 熱による劣化（焼け跡）	解体・画面洗浄 マット装	岩井絵画修復
4	エルンスト・ ルートヴィヒ・ キルヒナー	グラスのある 静物	油彩	支持体の平面性の欠陥 埃による汚染 虫の分泌物による汚染 擦傷、絵の具層の剥落	変形修正、 支持体張り直し 画面洗浄、充填整形 殺菌、補彩、 ワニス塗布	高澤学園創形 修復研究所
5	杉全 直	窪んだ空間B	油彩	支持体の平面性の欠陥 埃による汚染 虫の分泌物による汚染 絵の具層の剥落 黴の発生	破損部の接着 支持体張り直し 画面洗浄、充填整形 殺菌、補彩、 ワニス塗布 旧処置の除去 額の調整	高澤学園創形 修復研究所

展覧会図録等の資料作成

ア 所蔵作品関係

《愛知県美術館所蔵作品選》

A4判変形、213ページ 1992.10発行

《愛知県美術館所蔵作品目録》

A4判変形、263ページ 1993.3発行

イ 展覧会図録

《フォーヴィスムと近代日本洋画》

A4判変形、330ページ 1992.10発行

《近代の日本画 ―西洋との出会いと対話―

A4判、170ページ 1993.1発行

別刷り《NIHONGA ―Traditional-style Modern Japanese Painting―》(章解説等の英訳冊子)

A4判 20ページ

《20世紀 愛知の美術》

A4判、164ページ 1993.2発行

ウ その他

《愛知芸術文化センター 愛知県美術館 [概要]》

A4判、22ページ 1992.10発行

《愛知県美術館所蔵品展 平成4年度 第1期・第2期》

(展示解説ハンドブック)

21.5×11.5cm 29ページ 1992.10発行

《AICHI PREFECTURAL MUSEUM OF ART,

AICHI ARTS CENTER [概要欧文]》

A4判、22ページ 1993.3発行

《愛知県美術館利用案内》

リーフレット 1992.10発行

《平成5年度 愛知県美術館展覧会のご案内》

リーフレット 1993.3発行



企画展関連の記念講演会の開催

『フォーヴィスムと近代日本洋画』

第1回記念講演会：11月7日(土)

講師：陰里鐵郎氏 (三重県立美術館長)

ドナルド・マッカラム氏 (カリフォルニア大学教授)

第2回記念講演会：11月21日(土)

講師：高階秀爾氏 (国立西洋美術館長)

馬淵明子氏 (青山学院女子短期大学助教授)

『近代の日本画 ―西洋との出会いと対話―』

第1回記念講演会：1月23日(土)

講師：小嶋悠司氏 (京都市立芸術大学助教授)

第2回記念講演会：1月31日(日)

講師：小倉忠夫氏 (名古屋ボストン美術館設立準備委員会常任顧問)

『20世紀 愛知の美術』

第1回記念講演会：2月27日(土)

講師：西沢信正氏 (名古屋造形芸術短期大学教授)

第2回記念講演会：3月6日(土)

対談「芸術活動と地域性」

酒井忠康氏 (神奈川県立近代美術館長)

中村英樹氏 (名古屋造形芸術大学教授)

司会：浅野徹 (愛知県美術館長)

美術館講座の開催

第1回美術館講座：12月5日(土)

「フォーヴィスムをめぐって 1」

講師：野見山暁治氏 (東京芸術大学名誉教授)

二見 史郎氏 (愛知県立芸術大学教授)

第2回美術館講座：12月12日(土)

「フォーヴィスムをめぐって 2」

講師：島田康寛氏 (京都国立近代美術館主任研究官)

田中 淳氏 (東京国立近代美術館主任研究官)

ビデオテープでのAV機器を活用した鑑賞教育

ア ハイビジョン・ソフトの制作

所蔵作品のなかから下記の3点に関する番組を制作し公開した。

「クリムト《人生は戦いなり》」

「エルンスト《ポーランドの騎士》」

「キルヒナー《グラスのある静物》」

イ ビデオ・ソフトの制作

企画展及び所蔵作品に関する下記の番組を制作し公開した。

「戸谷成雄の世界」

「パウル・クレーの芸術」

「近代の日本画1 ―明治期―」

「サンサシオン ―愛知洋画の青春―」

ウ ビデオ番組の購入

美術関連のビデオ番組を6本購入し、自主制作番組とともに公開した。

エ 所蔵作品画像検索情報の作成

開館時点で200件の画像と関連文字情報を入力し公開した。

貸館事業（ギャラリー）

ア 利用状況

美術館ギャラリーの展示室において開催された展覧会は、開館（1992年10月30日）以降1993年3月末までに54件で、各展示室の利用率は、すべて100%となっている。また入場者数は40万人を越えており、多数の県民に親しまれ、利用されてきている。

(ア)展示室別利用状況（開館から93年3月末まで）

利 用 月	展 示 室 別 利 用 日 数											
	A室	B室	C室	D室	E室	F室	G室	H室	I室	J室	審査保管室	
											第 1	第 2
92年10月	2 ^日	2 ^日	2 ^日	2 ^日	2 ^日	2 ^日	2 ^日	2 ^日	2 ^日	2 ^日	— ^日	— ^日
11月	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	—	—
12月	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	—	—
93年 1 月	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	2	9
2 月	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	—	—
3 月	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	9	2
計	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	11	11
利用可能 日数(A)	125 ^日	125 ^日	125 ^日	125 ^日	125 ^日	125 ^日	125 ^日	125 ^日	125 ^日	125 ^日	125 ^日	125 ^日
利用日数 (B)	125 ^日	125 ^日	125 ^日	125 ^日	125 ^日	125 ^日	125 ^日	125 ^日	125 ^日	125 ^日	11 ^日	11 ^日
利用率 (B/A)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	8.8%	8.8%

(イ)展覧会種別利用状況及び入場者数

利用月	展 覧 会 種 別 利 用 件 数								入場者数
	総合展	絵画展	彫刻展	工芸展	書道展	デザイン 展	写真展	計	
92年10月	— 件	— 件	— 件	— 件	— 件	— 件	— 件	—	人 0
11月	1	—	—	—	—	—	—	1	55,220
12月	5	9	—	1	1	—	—	16	63,601
93年1月	4	5	—	1	5	1	—	16	219,220
2月	3	2	—	—	1	1	1	8	44,743
3月	4	2	—	—	3	3	1	13	53,395
計	17	18	—	2	10	5	2	54	436,179

(注)総合展とは、複数の種別にまたがる展覧会であり、規模の大小には関係ない。なお、件数及び入場者数は、展覧会会期の初日に属する月で整理してある。

(ウ)その他

「東海の作家たち」展について

1992年11月3日(火)～11月29日(日)の24日間、愛知芸術文化センター開館記念事業と銘打って「東海の作家たち」展が8階ギャラリー全室（A～J室）において「東海の作家たち組織委員会」主催により実施され、5万人を越える入場者があった。

主 催 「東海の作家たち」組織委員会（中日新聞社、中部日本放送、東海テレビ放送、東海ラジオ放送）

出品作家 愛知、岐阜、三重の東海3県下に在住または在勤し、「東海の作家たち」組織委員会の出品要請を受けた作家（591人）

出品部門別点数 日本画（88点）、彫刻の立体（69点）、洋画（190点）、版画（21点）、工芸（108点）、書（115点）、合計（591点）

入場者数 55,220人

平成4年度ギャラリー展示室利用団体一覧表

[illegible]

美術館運営の基本方針

美術館の運営に当たっては、次に掲げる基本理念等のもと、県民に親しまれる事業展開を図ることとしている。

●基本理念

県民の芸術文化ニーズの高度化・多様化に応えていく美術館として、我々の生きる“現代の視点”に立ち、美術文化の動向とその新たな展開に積極的に取り組んでいく、“活動する”美術館をめざす。

●基本的性格

ア 美術文化の将来を切り拓く視点の確保

現代美術の動向を踏まえつつ、他の芸術分野との結びつきも含めた新しい美術文化動向に柔軟に対応する。

イ 中部圏の美術文化の発振力向上への寄与

中部圏を中心とする美術館等の協力と連係による活動のセンター的性格を有することにより、美術文化の発振力の向上に寄与する。

ウ 国際的な美術文化の交流の場

国際的な視野にたった美術文化の交流を促進する上で、わが国の拠点の一つとして活動し、その中から新たな創造の芽を育む。

エ 日常生活と美術文化がコミュニケーションする場の形成

日常生活の中で気軽に優れた美術に接することができ、その中で親しみや潤いの得られる開かれた美術館とする。

オ 県民の参加による積極的な活動の展開

あらゆる世代の県民が美術について知性・感性を磨き、また、創造の喜びを味わうことのできるような活動の場としての美術館をめざす。

カ 複合機能を活かした柔軟な活動の展開

複合施設としての芸術文化センターの一翼を担う美術館として、その諸機能を活かして他部門の協力のもと、施設枠を超えた機能・スペースの活用などにより、広がり多様性のある展示等を柔軟に展開する。

●事業展開

ア 収集・保存

旧美術館の30余年にわたるコレクションに加え、以下の収集方針のもとにコレクションの一層の充実をめざして収集に取り組んでいる。

- (ア) 20世紀の優れた国内外の作品及び20世紀の美術動向を理解するうえで役立つ作品
- (イ) 現代を刻印するにふさわしい作品
- (ウ) 愛知県としての位置を踏まえた特色あるコレクションを形成する作品
- (エ) 上記の作品・作家を理解するうえで役立つ資料
収集した美術品を良好な状態に保ち、後世に伝えていく

ために、作品の保存には十分な配慮が払われねばならない。そのため、5階及び6階に収蔵庫、5階に企画保管庫、修復室などの設備などが設けられており、保存・修復の専門的な知識と経験をもった専門の学芸スタッフが配属されている。

イ 調査研究

作品収集や企画展開の基盤となるのは、豊かな経験と知識を有する学芸スタッフによる専門的で幅広い研究活動である。研究用の施設として5階に撮影室と暗室、11階に研究資料室が設けられている。その他、調査研究に欠くことのできない文献資料は、貴重な「西洋美術文献資料」22,398冊を含め、1階のアートライブラリーに収蔵されている。

ウ 企画展示

美術館の企画による展示会は、10階の展示室1～3で開催される。美術の様々な領域に目を向け、歴史に残る優れた芸術家の回顧や新しい美術動向の紹介など、多彩なテーマの企画展を概ね下記の方針に沿って開催している。

- (ア) 20世紀美術を系統的に紹介する国際展
- (イ) 世界の現代美術を紹介する国際展
- (ウ) 時代・地域に限定されない国際展
- (エ) 近代日本美術に関するテーマ展、回顧展
- (オ) 現代日本美術に関するテーマ展、個展
- (カ) 愛知県、東海地域に関する美術展
- (キ) 地域に関連の深い近現代作家の小規模展または学芸員の研究成果をもとにした小規模展

エ 所蔵作品展示

美術館が収集した作品は、10階の展示室4～8及び10階と12階に設けられた屋外展示スペースで、原則として以下の展示構成に基づいて公開している。

- 展示室4 20世紀前半の国内外の美術動向の展示
- 展示室5 20世紀後半の国内外の美術動向の展示
- 展示室6 音や光を伴う作品の展示、各種のテーマによる特集展示
- 展示室7 近現代日本画の展示
- 展示室8 20世紀版画・素描の展示
- 屋外展示スペース 屋外での展示が望ましい大型彫刻・立体の展示

展示室の一部に自然光を取り入れるなど、個々の作品を最適の条件のもとで鑑賞できるように配慮されている。これらの展示室、展示スペースを一巡することにより、20世紀初頭から今日に至るまでの国内外の美術の歴史的展開をたどることができる。また、各展示室の基本的性格に基づいたテーマ設定を行い、年間4～6回の展示替

えを行っている。

オ 教育普及

あらゆる世代の人々が美術に対する親しみと理解を深めることができるよう、以下の活動を行っている。

(ア) 10階ビデオテークでのAV機器による情報提供

54インチハイビジョンプロジェクター2台に企画展の見所や展示作品の解説、所蔵品に関連するものなどのビデオソフトを放映し、作品鑑賞の手引きとしている。また、32インチハイビジョン受像機2台を備えた画像検索ブースでは、所蔵作品をはじめとする美術作品を、精細な静止画像と文字情報を組み合わせて紹介している。

(イ) 移動展

美術館の活動を日常的に利用することが困難な地域において、年に1～2回、所蔵作品の公開とこれに関連する講座・講演等を行う。(開催に向けて準備中)

(ウ) 講座・講演会

12階のアートスペースにおいて、外部講師または自館学芸員による企画展に関連した講演会や様々なテーマによる定期講座を開いている。

カ ギャラリー

8階の展示室A～Jでは、公募展、団体展から地域の人々による作品発表まで多彩な展覧会が行われている。10室ある展示室は、展覧会の規模や性格に応じて自由に使い分けることが可能となっている。



8階ギャラリー

施設概要（展示・保存環境等）

作品展示

ワイヤーによる壁面展示、小型作品は壁面釘止め可能
固定展示ケースのほか移動型展示ケース、展示台等保有

区分	室名	固定壁長	可動壁長	ケース長	床材	天井高	積載荷重 t/m ²
企画・所蔵作品展示室（10階）	展示室1	68.0	25.2	28.0	タイルカーペット	4.50	1
	展示室2	102.0	126.5	28.5	タイルカーペット	5.50	1
	展示室3	32.5	—	—	タイルカーペット	3.50	1
	展示室4	53.2	24.0	17.5	ナラフローリング	5.35	1
	展示室5	82.5	67.2	21.0	ナラフローリング	6.00	1
	展示室6	32.2	—	—	タイルカーペット	6.25	0.5
	展示室7	37.0	—	20.0	タイルカーペット	4.00	1
	展示室8	36.8	—	20.5	タイルカーペット	4.50	1
	前室2	—	—	3.6	タイルカーペット	—	—
	展示室A	60.0	32.0	—	タイルカーペット	5.80	1
ギャラリー展示室（8階）	展示室B	60.0	32.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室C	60.0	32.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室D	62.0	32.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室E	43.5	18.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室F	43.5	18.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室H	48.0	18.0	—	タイルカーペット	5.50	1
	展示室I	48.0	18.0	—	タイルカーペット	5.80	1
	展示室G	79.0	30.0	—	長尺シート	4.90	1
	展示室J	70.0	—	—	長尺シート	5.80	1

（単位:m）

照明

区分	部屋名	照明器具
企画・所蔵作品展示室（10階）	展示室1～4	ウォールウォッシャー（ハロゲン） ＋蛍光灯間接照明 ＋スポットライト（着脱式）
	展示室5	自然光間接照明 ＋ウォールウォッシャー（ハロゲン） ＋蛍光灯間接照明 ＋スポットライト（着脱式）
	展示室6	スポットライト（昇降トラス）
	展示室7～8	蛍光灯ライン照明 ＋スポットライト（着脱式）
	展示ケース	蛍光灯 ＋スポットライト（着脱式）
ギャラリー展示室（8階）	展示室A～I	蛍光灯ライン照明 ＋スポットライト（着脱式）
	展示室G	蛍光灯ライン照明 ＋スポットライト（昇降トラス）
	展示室J	光天井（蛍光灯＋ルーバー） ＋スポットライト（着脱式）

すべて紫外線防止、高演色タイプ、無段階調光可能

空調調和

●美術館（10階）、収蔵庫 ●ギャラリー（8階）
各収蔵庫、展示室及び各展示室 各展示室で独立空調可能、8
ケースで独立空調可能、24時間 時間運転、中性能フィルター装
運転、中性能フィルター及び化 備
学吸着フィルター装備

区 分	展示室1～8	収蔵庫	区 分	展示室A～J
設定温度	夏期 25℃ 冬期 22℃	22℃	設定温度	夏期 25℃ 冬期 22℃
温度変化	1日 ±1℃		温度変化	1日 ±2℃
設定湿度	通年 55%（変更可能）		設定湿度	通年 55%（変更可能）
湿度変化	1日 ±3%		湿度変化	1日 ±6%

収蔵・保管設備

区 分	数	階	備 考
収蔵庫	4室	5、6	1,823m ²
企画保管庫	1室	5	178m ²
荷解梱包室	1室	5	94m ²
専用搬入口	2箇所	1	他に1箇所（B5）使用可能
専用昇降機	3機		最大積載量3.5t W3×D4×H3m

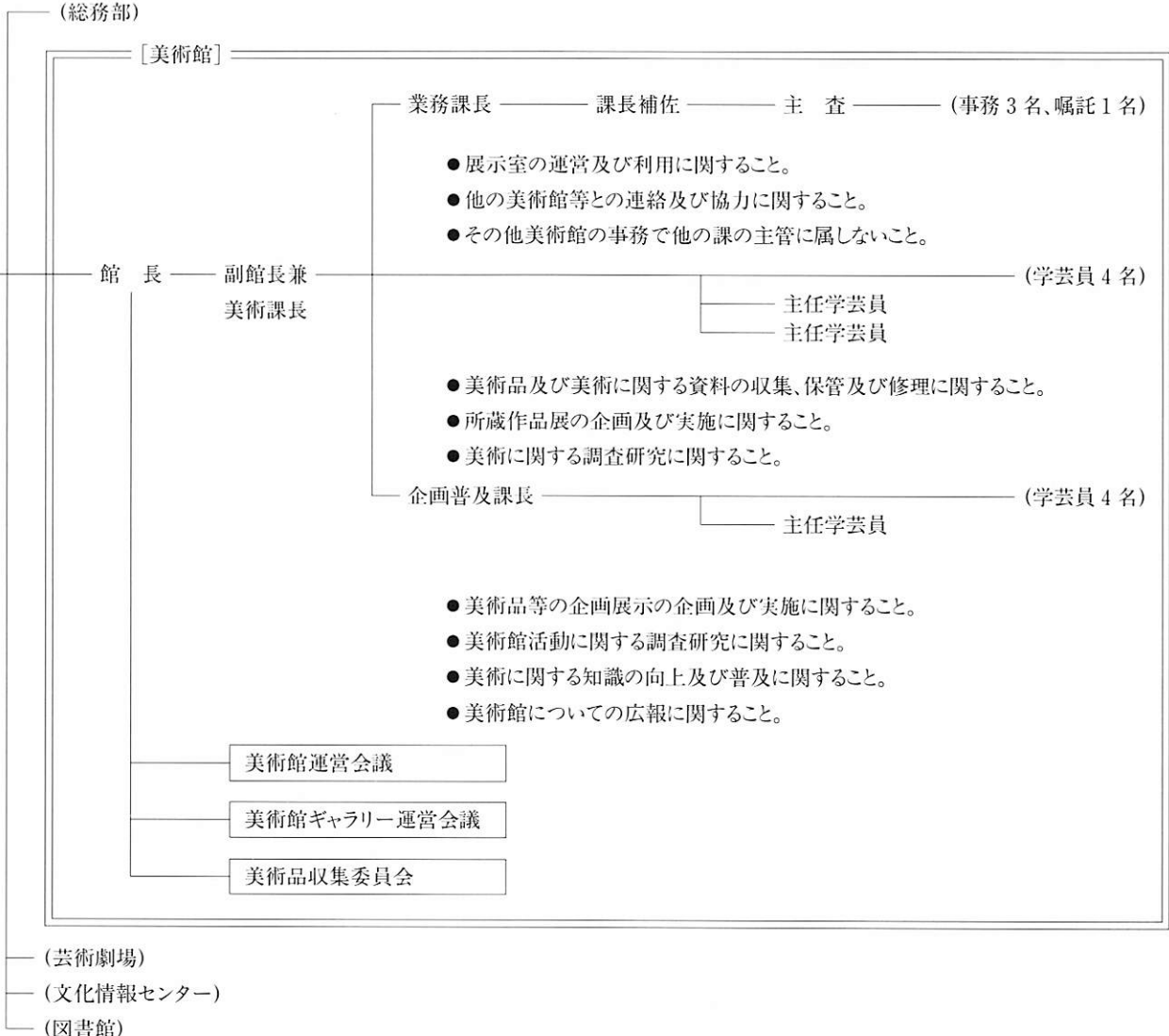
防災設備・体制

（ア）防火：館内防災センターにて集中管理

区 分	種 別
火災報知器	複合GR型
煙感知器	光電式スポット型1、2種他
熱感知器	差動式スポット型2種他
消火装置	ハロンガス消火設備 （展示室、収蔵庫、企画保管庫等）
消火器	ABC型粉末消火器を館内各所に設置

（イ）防犯：館内防災センターにて集中管理

区 分	内 容
警 備	24時間有人警備
展示監視	開館時には常時展示室内に監視員を配置 警備員と職員による随時巡回
監視カメラ	展示室等各所に設置 防災センター、事務室、学芸員室でモニター可能
防犯センサー	赤外線センサーの設置
扉 管 理	展示室進入経路の各扉には開閉信号取り出し機能
作品センサー	作品取り付けセンサーによる防犯システム
防犯ブザー	作品盗難防止用ブザーの取り付け可能



■愛知県美術館職員名簿（1993年3月）

館長	浅野 徹	美術課学芸員	村田 真宏
副館長兼美術課長	長谷川三郎	” ”	深山 孝彰
業務課課長	久野 寛	” ”	松井 秀法
” 課長補佐	浜島 正幸	” ”	長屋菜津子
” 主査	成田 佳隆	企画普及課課長	坂下 雄彦
” 主事	足立 克彦	” 主任学芸員	牧野研一郎
” ”	高木 伸彦	” 学芸員	村上 博哉
” ”	山田 由紀	” ”	古田 浩俊
美術課主任学芸員	木本 文平	” ”	寺門臨太郎
” ”	高橋 秀治	” ”	拝戸 雅彦

関係委員会名簿

■愛知芸術文化センター愛知県美術館運営会議委員名簿

岩崎吉一	東京国立近代美術館次長
陰里鐵郎	三重県立美術館長
笠井誠一	愛知県立芸術大学美術学部教授
川上 実	愛知県立芸術大学教授
清水 武	名古屋市博物館長
千足伸行	成城大学教授
建畠嘉門	愛知県立芸術大学学長
谷 隆夫	名古屋市美術館長
中村英樹	名古屋造形芸術大学教授
林 幸雄	愛知県文化振興事業団事務局長
原田義一	愛知県文化振興局長
村田慶之輔	美術評論家
森田恒之	国立民族学博物館教授

■愛知県美術館ギャラリー運営会議委員名簿

石黒鏑二	彫刻家・行動美術協会会員
笠井誠一	愛知県立芸術大学美術学部教授 洋画家・立軌会会員
加藤清之	陶芸家・日展会員
島田章三	洋画家・国画会会員
清水 武	名古屋市博物館長
高木桑風	中日書道会理事長 書家・日展会員
中村英樹	名古屋造形芸術大学教授
林 幸雄	愛知県文化振興事業団事務局長
原田義一	愛知県文化振興局長
平川敏夫	日本画家・創画会会員
山脇一夫	名古屋市美術館学芸課長

■愛知県美術館美術品収集委員会委員名簿

岩崎吉一	東京国立近代美術館次長
陰里鐵郎	三重県立美術館長
千足伸行	成城大学教授
中村英樹	名古屋造形芸術大学教授
村田慶之輔	美術評論家

開館の状況

(開館後—1993年3月までの利用状況)

ア.企画展の開催状況

企画展名	会期	日数(日)	入場者数(人)	一日平均(人)
フォーヴィスムと日本近代洋画 ※	1992年10月30日—12月20日	45	41,343	918
近代の日本画—西洋との出会いと対話 ※	1993年1月5日—2月11日	33	26,166	792
20世紀愛知の美術 ※	1993年2月19日—3月21日	27	11,585	429
※は開館記念展	合計	105	79,094	753

イ.所蔵作品展の開催状況

所蔵作品展名	会期	日数(日)	入場者数(人)	1日平均(人)
1992年度第1期「20世紀美術の展開」	1992年10月30日—12月20日	45	42,876	952
1992年度第2期「現代美術の諸相」	1993年1月5日—3月28日	72	40,624	564
	合計	117	83,500	713

ウ.ギャラリー展示室利用状況

利用月	展覧会種別利用件数 (件)								ギャラリー展示室 (A—J室)		
	総合展	絵画展	彫刻展	工芸展	書道展	デザイン展	写真展	計	利用日数(日)	入場者数(人)	1日平均(人)
1992年10月	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	—
11月	1	0	0	0	0	0	0	1	25	55,220	2,208
12月	5	9	0	1	1	0	0	16	24	63,601	2,650
1993年1月	4	5	0	1	5	1	0	16	24	219,220	9,134
2月	3	2	0	0	1	1	1	8	24	44,743	1,864
3月	4	2	0	0	3	3	1	13	26	53,395	2,053
計	17	18	0	2	10	5	2	54	125	436,179	3,489

(注)総合展とは、複数の種別にまたがる展覧会であり、規模の大小には関係ない。
なお入場者数は、展覧会会期の初日に属する月で整理してある。

関係法規(条例・規則等)

愛知芸術文化センター条例（抜粋）

（設置）

第1条 芸術文化の振興及び普及を図るため、愛知芸術文化センター（以下「センター」という。）を設置する。

2 センターは、次に掲げる施設をもって構成する。

- (1) 愛知県美術館
- (2) 愛知県芸術劇場
- (3) 愛知県文化情報センター
- (4) 愛知県図書館

（位置及び業務）

第2条 センターの各施設の位置及び業務は、別表第1のとおりとする。

（運営）

第3条 センターは、センターを構成する各施設相互の連携を図ることにより、芸術文化に関する総合施設として有機的に運営されなければならない。

（職員）

第4条 センターに、総長その他の職員を置く。

（利用の許可等）

第5条 次に掲げる者は、センターの利用について、各施設の長の許可を受けなければならない。

- (1) 愛知県美術館の展示室を利用して、展覧会を行おうとする者
- (2) 愛知県芸術劇場のホール又はリハーサル室を利用して、舞台芸術の公演、国際会議等を行おうとする者
- (3) 愛知県文化情報センターの催事室を利用して、講演会、展示会等を行おうとする者

2 各施設の長は、施設の管理上必要があるときは、前項の許可に条件を付けることができる。

（使用料）

第6条 前条第1項の許可を受けた者からは、別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 使用料は、当該施設の利用開始日までに、知事が指定する日までに、納付しなければならない。

3 納付された使用料は、次に掲げる場合を除き、還付しない。

- (1) 第9条第2項の規定により、知事が公共の福祉のために許可を取り消し、又は利用の中止を命じたとき。
 - (2) 前条第1項の許可を受けた者が各施設の長の承認を受けて利用を中止したとき。
- 4 知事は、災害その他の特別の理由がある者に対しては、使用料の全部若しくは一部を免除し、又はその徴収を延期することができる。
- 5 使用料を納期限までに納付しなかった者からは、納付すべき金額（千円未満の端数金額及び千円未満の金額は、切り捨てる。）に、当該期限の翌日から納付の日までの期間の日数に応じ、年14.5パーセントの割合を乗じて計算した金額に相当する延滞金を徴収する。ただし、延滞金に百円未満の端数があるとき、又は延滞金が百円未満であるときは、その端数金額又は、その全額を切り捨てる。

6 第4項の規定は、前項の延滞金について準用する。

（観覧料）

第7条 愛知県美術館が主催して展示する美術品等を観覧しようとする者（小学校就学前の者を除く。）は、別表第3に定める額の観覧料を納付しなければならない。

2 納付された観覧料は、特別の理由がある場合を除き、還付しない。

3 知事は、特別の理由がある者に対しては、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

（利用者の義務）

第8条 センターの利用者は、センターの利用に際しては、この条例及びこれに基づく規則の規定並びに第5条第2項の定により許可に付けられた条件及び関係職員の提示に従うとともに、センターの秩序を乱すような行為をしてはならない。

（許可取消し及び利用の中止命令）

第9条 各施設の長は、センターの利用者が前条の規定に違反したときは、第5条第1項の許可を取り消し、又は利用の中止を命ずることができる。

2 知事は、公共の福祉のためやむを得ない理由があるときは、第5条第1項の許可を取り消し、又は利用の中止を命ずることができる。

（規則への委任）

第10条 この条例に定めるもののほか、センターの利用条件その他のセンターの管理

に関し必要な事項は、規則で定める。

（過料）

第11条 詐偽その他不正の行為により、第6条の規定による使用料又は第7条の規定による観覧料の徴収を免れた者に対しては、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料を科する。

2 前項に定めるものを除くほか、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、一万円以下の過料を科する。

- (1) 第5条第2項の規定により許可に付けられた条件に違反してセンターを利用した者
- (2) 第9条の規定による許可の取消し又は利用の中止命令に違反してセンターを利用した者
- (3) その他不正の方法により許可を受けてセンターを利用した者

3 第8条の規定に違反してセンターの秩序を乱した者に対しては、五千円以下の過料を科する。

附 則

（施行期日）

1 この条例は、平成3年4月1日から施行する。ただし、第5条及び第7条の規定並びに別表愛知県図書館の項業務の欄の規定中県民の利用に関する部分は同月20日から、第1条第2項第1号から第3号まで及び同表愛知県美術館の項から愛知県文化情報センターの項までの規定は規則で定める日から施行する。

附 則

この条例は、平成4年10月30日から施行する。

別表第1（第2条関係）抜粋

施設の名称	位置	業務
愛知県美術館	名古屋市東区	(1) 美術品及び美術に関する資料を収集し、保管し及び展示すること。
		(2) 美術に関する調査研究を行うこと。
		(3) 展示室を利用させること。

別表第2（第6条関係）抜粋

愛知県美術館 展示室使用料

区分	単位	使用料の額(単位円)
A室、B室又はC室	全日	13,500円
	時間外1時間につき	2,000円
D室	全日	14,100円
	時間外1時間につき	2,100円
E室	全日	8,800円
	時間外1時間につき	1,300円
F室	全日	8,900円
	時間外1時間につき	1,300円
G室	全部利用	22,100円
	時間外1時間につき	3,300円
2分の1利用	全日	11,000円
	時間外1時間につき	1,700円
H室	全日	10,200円
	時間外1時間につき	1,500円
I室	全日	10,400円
	時間外1時間につき	1,600円
J室	全部利用	9,500円
	時間外1時間につき	1,400円
2分の1利用	全日	4,700円
	時間外1時間につき	700円
附属第1審査	全部利用	5,200円
	時間外1時間につき	800円
保管室	全部利用	2,600円
	時間外1時間につき	400円
附属第2審査	全部利用	4,400円
	時間外1時間につき	700円
保管室	全部利用	2,200円
	時間外1時間につき	300円

備考

- (1) この表において、次に掲げる用語の意義は、それぞれ次に定めるところによる。
- イ〜ハ省略
- ニ 全日 愛知県美術館にあっては午前10時から午後6時（金曜日にあっては、午後8時）までを、愛知県芸術劇場にあっては午前9時から午後10時までを、愛知県文化情報センターにあっては午前9時から午後9時までをいう。
- ホ 時間外 愛知県美術館にあっては午後6時（金曜日にあっては、午後8時）以後を、愛知県芸術劇場にあっては午後10時以後を、愛知県文化情報センターにあっては午後9時以後をいう。
- 二 特別の設備又は器具を設けて電力又は水道を使用する場合の使用料の額は、この表に定める額に実費として知事が定める額を加算した額とする。

表第3（第7条関係）

区分		単位	観覧料の額（単位円）
常設展示	個人	一般	1人1回につき 500円
		大学生又は高校生	1人1回につき 300円
		中学生又は小学生	1人1回につき 100円
	団体 (20人以上)	一般	1人1回につき 400円
		大学生又は高校生	1人1回につき 240円
		中学生又は小学生	1人1回につき 80円
企画展示		1人1回につき	2,000円以内でその都度知事が定める額

愛知県芸術文化センター管理規則（抜粋）

目次

- 第1章 総則（第1条）
- 第2章 センターの管理
- 第1節 通則（第2条―第4条）
- 第2節 美術館、芸術劇場及び文化情報センターの管理
- 第1款 利用期間（第5条）
- 第2款 利用の許可等（第6条―第10条）
- 第3款 美術品等の観覧及び模写等（第11条―第13条）
- 第4款 文化情報センターの図書等の利用（第14条―第23条）
- 第3節 図書館の管理
- 第1款 図書等の館内利用（第24条―第26条）
- 第2款 図書等の館外貸出し（第27条―第30条）
- 第3款 図書等の郵送による貸出し（第31条―第33条）
- 第4款 利用の停止（第34条）
- 第3章 雑則（第35条・第36条）
- 附則
- 第1章 総則
- （趣旨）
- 第1条 この規則は、愛知県芸術文化センター（以下「センター」という。）の管理に関する事項を定めるものとする。
- 第2章 センターの管理
- 第1節 通則
- （休館日）
- 第2条 センターの各施設の休館日は、次のとおりとする。
- 愛知県美術館 月曜日（当該月曜日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律（以下「美術館」 第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に該当する（以下「休日」という。）場合はその翌日以降の最初の休日でない日）12月28日から翌年1月3日まで
- 2 総長は、必要があると認めるときは、臨時に前項の休館日を変更し、又は休館日
- （利用時間）
- 第3条 センターの各施設の利用時間は、次のとおりとする。
- 美術館 午前10時から午後6時（金曜日にあっては、午後8時）まで
- 2 美術館が主催して展示する美術品等を観覧するため美術館に入館できる時間（次項において「入館時間」という。）は、午前10時から午後5時30分（金曜日にあっては、午後7時30分）までとする。

- 3 センターの各施設の長は、必要があると認めるときは、臨時に第1項の利用時間又は入館時間を変更することができる。
- （入館の禁止等）
- 第4条 総長及びセンターの各施設の長は、めいてい者その他センターの秩序を乱し、若しくは乱すおそれがある者又はセンターの施設に損害を加え、若しくは加えるおそれのある者に対し、センターへの立入りを禁じ、又は立ち退かせることができる。
- 第2節 美術館、芸術劇場及び文化情報センターの管理
- 第1款 利用期間
- （利用期間）
- 第5条 美術館、芸術劇場及び文化情報センター（以下「美術館等」という。）の利用期間は、次のとおりとする。
- 美術館
- 展示室 35日以内
- 展示室附属審査保管室 20日以内
- 2 美術館等の長は、必要があると認めるときは、臨時に前項の利用期間を変更することができる。
- 第2款 利用の許可等
- （利用の許可）
- 第6条 愛知芸術文化センター条例（平成3年愛知県条例第2号）第5条第1項の許可を受けようとする者は、利用許可申請書（様式第1）を美術館等の長に提出しなければならない。
- 2 美術館等の長は、前項の規定により利用許可申請書を提出した者について利用を許可したときは、利用許可書（様式第2）を交付するものとする。
- 3 前2項の規定により利用の許可を受けた者（以下「利用者」という。）の美術館等を利用する権利は、他人に譲渡し、又は転賃することができない。
- （利用の変更の許可）
- 第7条 利用者は、利用期間その他利用許可書に記載された事項を変更しようとするときは、利用変更許可申請書（様式第3）に利用許可書を添えて美術館等の長に提出しその許可を受けなければならない。
- （利用の取消しの承認）
- 第8条 利用者は、美術館等の利用の取消しをしようとするときは、利用取消承認申請書（様式第4）に利用許可書を添えて速やかに美術館等の長に提出し、その承認を受けなければならない。
- （利用後の届出）
- 第9条 利用者は、美術館等の利用を終わり、又は利用を中止したときは、速やかに利用した設備を原状に回復し、その旨を美術館等の長に届け出なければならない。（指示及び調査）
- 第10条 美術館等の長は、美術館等の秩序の維持及び美術館等の管理上必要があると認めるときは、利用者に対し美術館等の利用に関し、指示をし、又は利用中の施設に職員を立ち入らせ、利用の状況を調査させることができる。
- 第3款 美術品等の観覧及び模写等
- （観覧券の交付）
- 第11条 美術館が主催して展示する美術品等を観覧しようとする者（小学校就学前の者及び条例第7条第3項の規定により観覧料の全部を免除された者を除く。）は、観覧料の納付と引換えに観覧券（様式第5）の交付を受けるものとする。
- 2 団体が観覧券の交付を受けようとするときは、その団体の代表者は、あらかじめ団体観覧券交付申込書（様式第6）を美術館長に提出しなければならない。（観覧料の免除）
- 第12条 条例第7条第3項の規定により観覧料を免除する場合及びその額は、次のとおりとする。
- （1） 小学校又は中学校の教育課程に基づく教育活動の一環として児童又は生徒及びこれらの者の引率者が常設展の会場へ入場する場合 観覧料の全額
- （2） その他知事が特別の理由があると認める場合 その都度知事が定める額
- 2 全項第1号の規定により観覧料の免除を受けようとする者は、あらかじめ観覧料免除申請書（様式第7）を知事に提出して、その承認を受けなければならない。
- 3 知事は、前項の申請があった場合において免除を承認したときは、観覧料免除承認書（様式第8）を交付するものとする。
- （模写等の許可）
- 第13条 美術館が主催して展示する美術品等の模写及び複写をしようとする者は、美

- 術品等模写等許可申請書(様式第9)を美術館長に提出し、その許可を受けなければならない。
- 2 美術館長は、模写等を許可する時は、美術品等模写等許可書(様式第10)を交付するものとする。
- 第3章 雑則
- (損害賠償)
- 第35条 センターを利用する者は、故意又は過失によってセンターの施設、附属設備、美術品等及び図書等を損傷し、滅失し、又は忘失したときは、それによって生じた損害を賠償しなければならない。
- (雑則)
- 第36条 この規則に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、総長が定める。ただし、次に掲げる利用等に関し必要な事項は、センターの各施設の長が定める。
- (1) 美術館の展示室の利用
- (2) 美術品等の模写及び複写
- (3) 芸術劇場のホール及びリハーサル室の利用
- (4) 文化情報センターの催事室及びアートプラザの利用
- (5) 文化情報センター及び図書館の図書等の利用
- 附 則
- (施行期日)
- 1 この規則は、平成4年10月30日から施行する。
- (愛知芸術文化センター愛知県図書館規則の廃止)
- 2 愛知芸術文化センター愛知県図書館規則(平成3年愛知県規則第41号)は、廃止する。
- (経過措置)
- 3 この規則の施行の際、現に前項の規定による廃止前の愛知芸術文化センター愛知県図書館規則(以下「旧規則」という。)第9条第1項の規定により交付を受けている利用カードは、第29条の規定により交付を受けた利用カードとみなす。
- 4 この規則の施行の際、現に旧規則の規定に基づきなされている図書等の館外貸出し、図書等の郵送による貸出し又は郵送貸出しの登録は、この規則の相当規定に基づきなされたものとみなす。
- (愛知県公印規則の一部改正)
- 5 愛知県公印規則(昭和30年愛知県規則第1号)の一部を次のように改正する。
- 第2条に次の1号を加える。
- 12 愛知芸術文化センターの各施設(愛知県図書館を除く。)の長の印

愛知県美術館運営会議設置要領

- (目的)
- 第1条 愛知芸術文化センター愛知県美術館(以下「美術館」という。)の円滑かつ適正な運営を図るため、愛知県美術館運営会議(以下「運営会議」という。)を設置する。
- (協議事項)
- 第2条 運営会議は、次の事項について協議する。
- (1) 美術館の運営に関すること。
- (2) 企画展、常設展及び教育普及事業等の美術館の事業に関すること。
- (3) その他必要と認められる事項。
- (構成員)
- 第3条 運営会議は、次の各号に掲げる委員15名以内をもって構成する。
- (1) 学識経験を有する者
- (2) 美術館関係者
- (3) 県関係者
- (4) その他館長が適当と認める者
- 2 前項の委員は、愛知芸術文化センター総長が依頼する。
- (委員の任期)
- 第4条 委員の任期は3年とし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。
- (会長等)
- 第5条 運営会議に会長を置く。
- 2 会長は、委員の互選により選出する。
- 3 会長は、運営会議を代表し、会務を総理する。
- 4 会長に事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員が、会長の職務を代理

- する。
- (召集)
- 第6条 運営会議は、会長が召集する。
- (事務)
- 第7条 運営会議の事務は、美術館において処理する。
- (その他)
- 第8条 この要領に定めるもののほか、運営会議に必要な事項は、別に定める。
- 附 則
- この要領は、平成4年6月1日から施行する。

愛知県美術館美術品収集委員会開催要項

- (設 置)
- 第1条 愛知芸術文化センターに設けられる愛知県美術館において収蔵しようとする美術品及び美術に関する資料(以下「美術品」という。)の選定に関する事務を適正かつ円滑に行うため愛知県美術館美術品収集委員会(以下「収集委員会」という。)を置く。
- (所掌事務)
- 第2条 収集委員会は、次の事項を審議する。
- (1) 購入する美術品の選定及び評価に関すること。
- (2) 寄贈又は寄託に係る美術品の受入れに関すること。
- (3) 美術品の処分に関すること。
- (組 織)
- 第3条 収集委員会は、7人以内の委員で組織する。
- 2 委員は、美術に関する専門知識を有する者のうちから、愛知芸術文化センター総長(以下「総長」という。)が依頼する。
- 3 委員の任期は、3年とする。ただし、委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 委員は再任されることができる。ただし、当該委員の年齢が、70歳を越えた場合はこの限りではない。
- (委員長)
- 第4条 収集委員会に委員長を置き、委員長は委員の互選により定める。
- 2 委員長は、収集委員会の会議を主宰する。ただし、委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代理する。
- (会 議)
- 第5条 収集委員会は、委員長が招集する。
- 2 収集委員会は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。
- 3 収集委員会は、必要があると認めるときは、委員でない者の出席を求め、意見を聴くことができる。
- (評価員)
- 第6条 収集委員会は、美術品の評価に関し、必要があると認めるときは、総長に対して、特別評価員(以下「評価員」という。)の評価を要請することができる。
- 2 評価員は、その都度次の各号に掲げる要件を備える者のうちから、3人以内を総長が依頼する。
- (1) 当該美術品に関して、専門的知識を有すること。
- (2) 人格が高潔であり、かつ、公正な判断ができること。
- (3) 当該美術品と利害関係を有しないこと。
- (庶 務)
- 第7条 収集委員会の庶務は、愛知芸術文化センター美術館において処理する。
- (雑 則)
- 第8条 この要領に定めるもののほか収集委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。
- 附 則
- この要領は、昭和63年6月15日から施行する。
- 附 則
- この要領は、平成3年4月1日から施行する。
- 附 則
- この要領は、平成4年4月1日から施行する。

愛知芸術文化センター愛知県美術館所蔵品貸出要領(平1.12.1施行)

(目的)

第1条 この要領は、県が愛知県美術館の所蔵品とするために収集した美術品等(以下「美術品等」という。)の貸出しに関し、必要な事項を定めるものとする。

(貸出しの承認)

第2条 愛知県美術館長(以下「館長」という。)は、次に掲げるものから美術品等の借用の申請があった場合において、美術文化の普及上適当と認めたときは、無償で美術品等の貸出しを承認することができる。

- (1) 国、公共団体又は公益的団体
- (2) 館長が特に必要と認めたもの

(貸出しの申請)

第3条 美術品等の貸出しを受けようとする者は、次の事項を記載した美術品等借用申請書を館長に提出しなければならない。

- (1) 申請者の住所、団体名及び代表者名
- (2) 借用目的
- (3) 借用期間
- (4) 借用しようとする美術品等の名称及びデータ
- (5) 陳列のための施設及び設備の概要
- (6) 借用期間中の管理の方法
- (7) その他参考となる事項

(貸出期間)

第4条 美術品等の貸出期間は3月以内とする。ただし、館長が必要と認めるときは、貸出期間を延長することができる。

(承認)

第5条 館長は、美術品等の貸出しを承認したときは、申請者に対して承認書を交付するものとする。

(遵守事項)

第6条 美術品等を借り受けるものは、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 美術品等の梱包輸送等に要する一切の費用は、貸出しの承認を受けた者の負担とすること。
- (2) 貸出期間中の美術品等の保管は、貸出しの承認を受けた者の責任とし、亡失、汚損、き損等のあったときは、館長の指示に従い賠償の責を負うものとする。
- (3) 貸出しを承認された美術品等の撮影、模写、印刷物掲載等については、事前に館長と協議すること。
- (4) 美術品等の貸出時及び返還時には、双方の担当者が作品状況を点検確認すること。
- (5) 図録等には、愛知県美術館所蔵品であることを明記すること。
- (6) その他館長が必要と認めて指示した事項

(撮影模写等の承認)

第7条 館長は、前条第3号の協議があった場合において、著作権者の同意のない美術品等については、承認しないものとする。

(美術品等借用書)

第8条 美術品等の貸出しを承認された者は、美術品等借用書を提出し、これと引換えに美術品等を受領しなければならない。

2 館長は、美術品等が返還されたときは、これと引換えに美術品等借用書を返付する。

附 則

この要領は、平成元年12月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成4年10月30日から施行する。

愛知県美術館美術品等寄託受入れ規程(平5.4.1施行)

(趣 旨)

第1条 この規程は、愛知県美術館(以下「美術館」という。)が行う美術品等の受入れの取扱いについて、愛知県財務規則(昭和39年規則第10号)等に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。

(寄託の申込み)

第2条 美術館に美術品等の展示等に供するため、長期にわたり保管委託(以下「寄託」という。)しようとする者(以下「寄託者」という。)は、美術品等寄託申請申込書(様式第1)を愛知県美術館長(以下「館長」という。)に提出し、その

承認を受けるものとする。

(寄託品の決定)

第3条 館長は、寄託申込書の提出があったときは、その内容を調査し、当該美術品等(以下「寄託品」という。)が次のいずれかに該当するときは、受託承認書(様式第2)を交付するものとする。

- (1) 美術館の展示又は研究の用に供すると認められるもの。
- (2) 美術館に保管することが適当であると認められるもの。
- (3) その他館長が特に必要と認めるもの。

(寄託期間)

第4条 寄託期間は、2年とする。ただし、特別の理由があるときは、その都度協議の上、定めるものとする。

(寄託品の預り及び返還)

第5条 館長は、寄託品を受け入れようとするときは、寄託者に預り証(様式第3)を交付するものとする。

2 寄託品の返還は、預り証と引き換えに行うものとする。

3 寄託品の返還を受けようとする者が寄託者の代理人であるときは、預り証に、委任状その他これを証する書面を添えるものとする。

(寄託品の取扱い)

第6条 寄託品の保管の責は、館長が負うものとする。ただし、美術館の責めによらない理由による場合は、この限りでない。

(寄託品の荷造り運搬等)

第7条 館長は、寄託品の受入れ及び返還に伴う荷造り運搬等に要する経費の一部又は全部を負担することができる。

(寄託品の変更等)

第8条 寄託者は、次のいずれかに該当するときは、速やかに預り証にその理由を証す書面を添えて館長に提出するものとする。

- (1) 寄託者が、他人に寄託品を譲渡するとき。
- (2) 住所変更など、寄託申込書の記載事項に変更が生じるとき。

(預り証の再交付)

第9条 寄託者が、預り証を亡失又は破損したときは、寄託品預り証再交付願(様式第4)を館長に提出し、再交付を受けるものとする。なお、預り証を破損した場合は、当該預り証を添付するものとする。

(寄託品の一時返還)

第10条 寄託者は、寄託品の一時的返還を求めようとするときは、少なくとも返還日の2か月前に寄託品一時返還願(様式第5)を館長に提出するものとする。

2 館長は、寄託品一時返還願の提出があったときは、調査の上、寄託品一時返還承認書(様式第6)を交付するものとする。

3 寄託品の一時的返還は、預り証と引き換えに行うものとする。

(寄託期間内の返還申し出)

第11条 寄託者は、寄託期間中に寄託品の返還を求めようとするときは、少なくとも2か月前に寄託品期間内返還申し出書(様式第7)を館長に提出するものとする。

2 館長は、寄託品期間内返還申し出書の提出があったときは、調査の上、寄託品期間内返還同意書(様式第8)を交付するものとする。

3 寄託品の返還は、預り証と引き換えに行うものとする。

(寄託品の借用)

第12条 館長は、展示又は調査研究のため、美術品等を寄託品としてすすんで受け入れようとするときは、当該美術品の所有者(以下「所有者」という。)に寄託品依頼書(様式第9)を提出し、その所有者から承諾書(様式第10)を受けるものとする。

(借用書の発行)

第13条 館長は、承諾書を受けたときは、所有者に借用書(様式第11)を発行するものとする。

(準 用)

第14条 第4条(寄託期間)、第5条第2項(返還)、同条第3項(代理人による返還)及び第6条から第11条(寄託品の取扱い等)までの規定は、美術館がすすんで受け入れようとする寄託品について準用する。この場合において、「預り証」とあるのは、「借用書」と読み替える。

(公表及び写真撮影等)

第15条 館長は、次のいずれかに該当するときは、所有者の承諾を得るものとする。

- (1) 寄託品の所有者名の公表

(2) 美術館が発行する展覧会目録への掲載、資料としての保管、報道機関に対する資料提供など、美術館が公共の利用に資する目的で行う寄託品の写真撮影、複写等
(補 則)
第16条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は館長が定める。
附 則
この規程は、平成5年4月1日から施行する。
(様式の記載は省略)

愛知県美術館ギャラリー運営会議設置要領

(目 的)
第1条 愛知芸術文化センター愛知県美術館（以下「美術館」という。）ギャラリーの円滑かつ適正な運営を図るため、愛知県美術館ギャラリー運営会議（以下「ギャラリー運営会議」という。）を設置する。
(協議事項)
第2条 ギャラリー運営会議は、次の事項について協議する。
(1) 美術館ギャラリーの運営に関すること。
(2) 美術館ギャラリー展示室の利用の調整に関すること。
(3) その他必要と認められる事項。
(構成員)
第3条 ギャラリー運営会議は、次の各号に掲げる委員15名以内をもって構成する。
(1) 学識経験を有する者
(2) 美術作家
(3) 美術館（ギャラリー）関係者
(4) 県関係者
(5) その他館長が適当と認める者
2 前項の委員は、愛知芸術文化センター総長が依頼する。
(委員の任期)
第4条 委員の任期は3年とし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。
(会長等)
第5条 ギャラリー運営会議に会長を置く。
2 会長は、委員の互選により選出する。
3 会長は、運営会議を代表し、会務を総理する。
4 会長に事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員が会長の職務を代理する。
(召 集)
第6条 ギャラリー運営会議は、会長が召集する。
(事 務)
第7条 ギャラリー運営会議の事務は、美術館において処理する。
(その他)
第8条 この要領に定めるもののほか、運営会議に必要な事項は、別に定める。
附 則
この要領は、平成4年6月1日から施行する。

愛知県美術館ギャラリー展示室利用受付許可要領（平4. 10. 30施行）

(趣 旨)
第1条 この要領は、愛知芸術文化センター条例及び愛知芸術文化センター管理規則（以下「規則」という。）の規定に基づく愛知県美術館ギャラリーの展示室（附属審査保管室を除く。以下「展示室」という。）の利用許可等に関し必要な事項を定めるものとする。
(利用仮申込書の受付時間)
第2条 展示室の利用を希望する者は、展示室の利用開始期日の次表に掲げる利用期間に応じ、それぞれ右欄に掲げる仮受付期間（休館日を除く。）に展示室利用仮申込書（以下「仮申込書」という。）を提出するものとする。

利用期間	仮受付期間
1月4日から6月30日までの間のもの	展示室利用開始予定期日の含まれる年の前年の6月1日から20日までの間
7月1日から12月27日までの間のもの	展示室利用開始予定期日の含まれる年の前年の12月1日から20日までの間

2 仮申込書の受付時間は、午前10時から午後6時までとする。
(抽選枠の設定)
第3条 美術館長（以下「館長」という。）は、第2条の規定に基づく仮受付ごとに、展示室Jの利用について、当該仮受付の対象となる利用期間中の一定期間について、あらかじめ抽選枠を設定する。
(利用仮申込みの区分)
第4条 第2条の規定に基づく展示室利用仮申込みの区分は、次の各号に定めるとおりとする。
(1) 一般仮受付 展示室AからIまでの利用及び第3条の規定に基づき、館長が設定した抽選枠に係る利用を除く展示室Jの利用
(2) 抽選仮受付 第3条の規定に基づき、館長が設定した抽選枠に係る展示室Jの利用
(一般仮受付の利用許可スケジュール案の作成)
第5条 館長は、第2条の規定に基づく仮申込書の受付終了後、それぞれおおむね1か月以内に、第4条第1号に規定する一般仮受付に係る利用について、展示室利用許可スケジュール案（以下「スケジュール案」という。）を作成する。
2 スケジュール案の作成に当たっては、関係各展示室利用仮申込者の希望、展示予定作品の種類、点数及び内容並びに過去の利用実績又は各展示室利用仮申込者に係る美術団体の会歴、会員組織、業績等を考慮して、利用させる会場及び利用期間を調整するものとする。
3 館長は、スケジュール案の作成後、愛知県美術館ギャラリー運営会議（以下「ギャラリー運営会議」という。）を開催し、その意見を聴取のうえ、スケジュール案の所要の調整を行い、スケジュール案を確定する。
(一般仮受付の利用許可の決定)
第6条 館長は、第5条の規定に基づくスケジュール案に基づき、利用許可を内定し、関係各展示室利用仮申込者に対し、利用させる会場、利用期間等を記載した展示室利用許可内定書（以下「内定書」という。）を送付する。
(抽選参加者の決定)
第7条 館長は、ギャラリー運営会議を開催し、その意見を聴取のうえ、第4条第2号に規定する抽選仮受付に係る各仮申込者について、抽選に参加させるか否かを決定する。
(抽選の実施)
第8条 館長は、第4条第1号に規定する一般仮受付に係る利用について、第6条の規定に基づき内定書を送付した後、第4条第2号に規定する抽選仮受付に係る利用について、関係各展示室仮申込者に日時を通知のうえ、抽選を行う。
(抽選仮受付の利用許可の決定)
第9条 館長は、第8条の規定に基づく抽選の結果に基づき、利用許可を内定する。
2 前項の規定にかかわらず、館長は、抽選に参加できる関係展示室仮申込者の人数が、第3条の規定に基づき設定した抽選枠の枠数を超えない場合は、すべての関係展示室仮申込者の利用許可を内定する。
3 館長は、前2項の規定に基づき利用許可を内定したときは、関係各展示室利用仮申込者に対し、利用させる会場、利用期間等を記載した内定書を送付する。
(利用許可申請書の受付)
第10条 第6条又は第9条の規定に基づく内定書の送付を受けた各展示室利用仮申込者は、館長の指定する期日（以下「利用許可申請書提出期日」という。）までに来館のうえ、規則第6条第1項の規定に基づく展示室利用許可申請書（以下「許可申請書」という。）を提出するものとする。
(利用許可書の交付等)
第11条 許可申請書の提出を受けた館長は、各展示室利用仮申込者に対し、規則第6条第2項の規定に基づく利用許可書を送付する。
(利用の許可を受け得るものの範囲等)
第12条 利用の許可を受け得る者は、県民の芸術文化の向上に資すると認められる次の各号に掲げる展覧会を開催しようとする者とする。
(1) 主要美術団体による全国的又は全県的な規模による創作美術品の一般公募展
(2) 国、地方公共団体及び公共性を有する機関等による国際的又は国内的に定評のある美術作品の展覧会
(3) 愛知県文化振興事業団による美術作品の展覧会
(4) その他芸術振興、国際親善等のため適当と認められる美術展
(利用許可を与えない場合)
第13条 次の各号に掲げる場合には、利用許可を与えない。

- (1) 利用許可申請者が、未成年者又は無能力者（禁治産者等）である場合
 - (2) 利用許可申請者が、法的又は社会的な責任を十分に取得する者でない場合
 - (3) 展示しようとする作品が、「愛知県美術館ギャラリーにおける展示作品の種類、展示の方法、規格基準等」に抵触する場合
- （一般仮受付に係る利用許可の優先順位）

第14条 第4条第1号に規定する一般仮受付に係る利用許可をするに当たっての優先順位は、原則として、次のとおりとする。

- 第1順位 全国的な規模による創作美術品の一般公募及び国際的又は国内的に定評のある美術作品の展覧会の開催を目的とする利用
- 第2順位 全国的な規模による創作美術品の一般公募展の開催を目的とする利用
- 第3順位 その他芸術振興、国際親善等のため適当と認められる美術展の開催を目的とする利用

（利用区分）

第15条 展示室の利用許可に当たっては、展示室ごとの利用を許可するほか、複数の展示室の組合せの利用を許可する。また、展示室G及びJについては、2分割の利用も許可するものとする。

（利用許可の単位等）

第16条 展示室AからIの利用許可は、休館日の翌日から次の休館日の前日までの期間（以下「単位期間」という。）を最少の期間とし、引き続き単位期間を限度として、この期間に含まれる日について行う。

- 2 美術館長が、作品の搬入、搬出等のため特に必要があると認める期間については、当該期間に限り、前項に規定する限度を超えて、この期間に含まれる日についても、利用許可を行う。
- 3 展示室Jの利用許可は、引き続き2日以上の日について、休館日を除き10日を限度として行う。ただし、展示室AからIまでと組合せ利用の場合は、前2項の規定に準じて利用許可を行う。

（休館日に係る利用許可）

第17条 休館日については、展示室の利用許可は行わない。ただし、利用者が、展示室の利用開始日から利用終了日までの間に含まれる休館日に作品の展示替え等のために展示室に立ち入る必要がある場合は、この限りではない。

附 則

この要領は、平成4年10月30日から施行する。

愛知県美術館沿革

愛知県文化会館美術館	愛知芸術文化センター愛知県美術館
1952年 4月 サンフランシスコ講和条約の発効に際し、講和記念事業文化施設基本計画樹立委員会設置 10月 愛知県文化会館懸賞競技設計募集開始 1953年 2月 愛知県文化会館懸賞競技設計入選者発表 6月 基本設計着手 1954年 2月 美術館建設着工 1955年 1月 美術館建設竣工 2月 美術館開館 4月 『愛知県文化会館美術館ニュース窓口』創刊 5月 藤井達吉氏より1,460点の絵画・工芸品の寄贈 1957年 10月 最初の企画展「愛知総合文化財展」開催 1959年 4月 ブールデル作《アルヴァール将軍の記念碑》のための4体のブロンズ像《力》《自由》《勝利》《雄弁》購入 1967年 7月 最初の所蔵品展開催 1971年 3月 『美術館所蔵品目録』発行 1975年 5月 開館20周年記念事業として移動展「愛知県美術館所蔵名作展」開催 1979年 4月 常設展示室開設 1985年 9月 開館30周年記念・特別展「郷土の画家たち～愛知県美術館30年のあゆみ展」開催 1992年 2月 常設展入場者数40万人達成 3月 常設展示室閉室 10月 閉館	1983年 4月 知事、記者会見で新文化会館の審議会設置を事務当局に指示した旨、発表 7月 新文化会館（仮称）構想懇談会設置 1985年 3月 建設基金条例制定 「新文化会館基本構想」提言 4月 新文化会館建設事務局設置 7月 新文化会館建設委員会に美術館部会設置 1986年 8月 栄地区施設公開設計競技開始 11月 美術品収集計画研究会設置 1987年 5月 栄地区施設最優秀作品発表 12月 栄地区施設基本設計終了 1988年 4月 美術品等取得基金設置 6月 美術品収集委員会設置 11月 栄地区施設実施設計終了 1989年 3月 栄地区施設起工式 10月 「新収蔵作品展」開催 1991年 4月 文化振興局設置 11月 第2回「新収蔵作品展」開催 1992年 4月 愛知県美術館準備室開設 6月 美術館運営会議・美術館ギャラリー運営会議設置 栄地区施設竣工 10月 美術館開館

利用案内

- 開館時間 午前10時～午後 6 時（入館は 5 時30分まで）
金曜日は午後 8 時まで夜間開館（入館は 7 時30分まで）
- 休館日 月曜日（祝祭日の場合はその翌日）、年末年始（12月28日～ 1 月 3 日）、整理期間
- 観覧料 （1 人 1 回につき）

区 分	所蔵作品展示		企画展示
	個人	団体	
小・中学生	100円	80円	2,000円以内で知事が定める額
高・大学生	300円	240円	
一 般	500円	400円	

- 交通案内 ・地下鉄
東山線・名城線「栄」下車、東へ徒歩 2 分
桜通線・名城線「久屋大通」下車、南へ徒歩10分
・駐車場（有料）
約600台（地下）
- 所在地 〒461 名古屋市東区東桜一丁目13番 2 号
TEL 052(971)5511(代)
FAX 052(971)5604

愛知県美術館年報	1992年度版
	1994年3月発行
編集・発行	愛知県美術館 ©1994
	名古屋市東区東桜1-13-2
表紙デザイン・本文レイアウト	小谷恭二
印刷	凸版印刷株式会社